

Concert

KORG DIGITAL PIANO

C-45/C-55/C-55S
取扱説明書

KORG

ご使用になるまえに

■使用する場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- 砂やホコリの多い場所

■電源について

- 電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでお使いください。お買い上げになった製品は国内仕様ですので、100V以外の電源コンセントは絶対に接続しないでください。
- 電源のタコ足配線は、雑音が出たり音質が悪くなる原因となることがありますので、ご注意ください。

■取り扱いはやさしく

- スイッチやスライダーつまみなどに必要以上の力を加えたりすると、故障の原因となりますので、取り扱いには十分にご注意ください。
- キーカバー上に必要以上の力を加えたり、乱暴に開閉しないでください。故障の原因となることがあります。

■設置場所について

- C-45/C-55/C-55Sは、本体の音響特性上、背面からも音が出るような構造になっております。そのため、お部屋に設置していただく場合には、本体をお部屋の壁などから少し離して、多少の隙間を設けていただくことにより、よりいっそう臨場感あふれるサウンドがお楽しみいただけます。お好みにより調節してください。

■異物混入のご注意

- 本体の上には、コップ・花瓶など液体の入ったものは絶対に置かないでください。本体に液体が入ると故障するばかりか火災・感電などの恐れもあります。
- 本体の内部には（鍵盤と鍵盤のすきまなどから）、ヘアピン・硬貨などの金属物が入らないようにご注意ください。

上記の場合は、本体の電源スイッチをOFFにし、AC電源コードをコンセントより抜いてから、最寄りの営業所、または販売店にご連絡ください。

■お手入れ

- 外装のお手入れのときには、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジン、シンナー系の溶剤や、強燃性のポリッシャーなどは絶対に使用しないでください。

■保証書の手続き

- 保証書は、購入時点での手続きが行われていない場合、無効となることがあります。必ずお買い上げのお店でお手続きを行なったうえで、大切に保管してください。

■取り扱い説明書は大切に

- この取り扱い説明書はお読みになったあとも大切に保管してください。

バックアップバッテリーについて

C-45/C-55/C-55Sには、電源を切った後各音色にて設定したエフェクトなどの内容を保持するためのバックアップ用のリチウム・バッテリーを装備しています。製品をお求めになった後5年を目安として、最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせのうえ、バッテリーの交換を行ってください。

目次

C-45/C-55用スタンドの組み立て方	3
C-55S用スタンドの組み立て方	5
各部の名称	6
弾いてみましょう	8
音色を変えて弾いてみましょう	9
音色にエフェクトをかけてみましょう	10
二つの音色を同時に出してみましょう	12
ペダルを使ってみましょう	15
古典音律を使って演奏してみましょう	16
タッチコントロール機能	18
デモ演奏を聴いてみましょう	19
トランスポーズ機能	20
ピッチコントロール	22
演奏を記録・再生してみましょう	23
演奏を記録してみましょう	24
記録した演奏を聴いてみましょう	26
リピート演奏を行うには	27
いろいろな録音機能	29
メトロノーム機能	32
MIDIを使って	34
MIDIモードの設定	34
外部MIDI機器との同期	39
MIDIマルチ機能を活用しましょう	40
MIDIデータ・ダンプ機能	42
MIDIインプリメンテーション	44
故障とお思いになる前に	46
仕様・アフターサービス	47

C-45/C-55 用スタンドの組み立て方

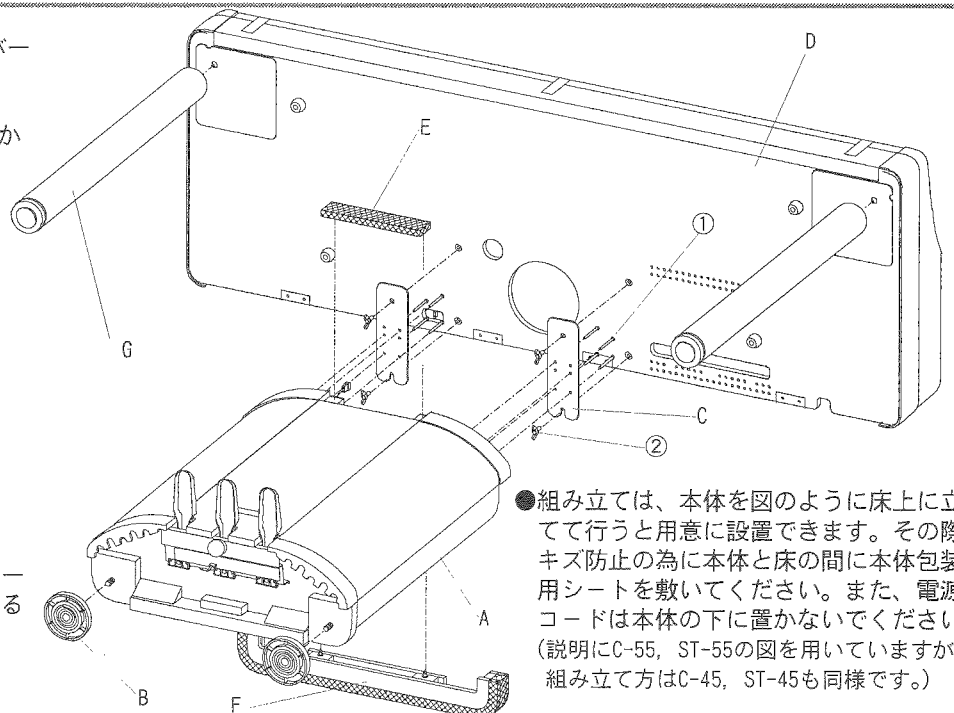
●組み立てには、+（プラス）のドライバーが必要です。ご用意ください。

●箱を開けたら、各部品が揃っているか確認してください。

- (D. キーボード本体)
- A. ボックススタンド……1
 - B. アジャスター………2
 - C. 本体取付金具………2
 - E. フロントネット………1
 - F. リアネット………1
 - G. パイプ足………2

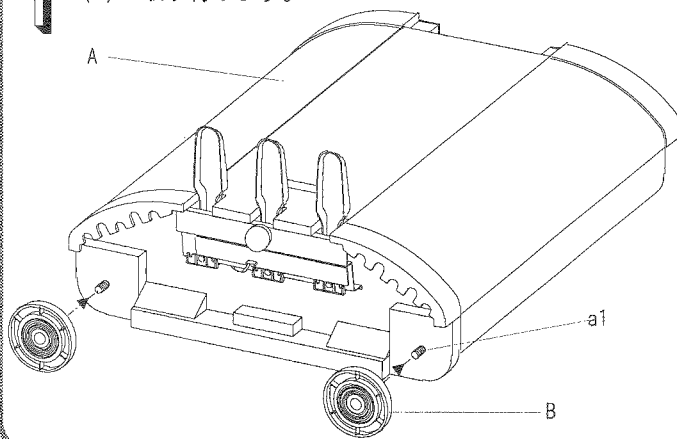
- ①. ビス………8
- ②. 蝶ネジ………4

●キーカバーのテープと譜面立てのテープは、完全にセッティングが終了するまではがさないでください。



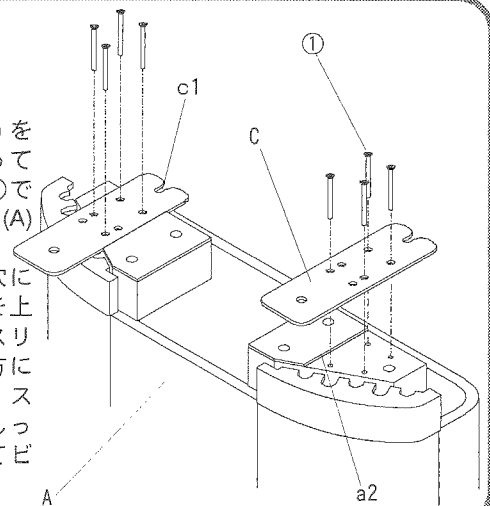
●組み立ては、本体を図のように床上に立てて行うと用意に設置できます。その際キズ防止の為に本体と床の間に本体包装用シートを敷いてください。また、電源コードは本体の下に置かないでください。(説明にC-55, ST-55の図を用いていますが組み立て方はC-45, ST-45も同様です。)

1 ボックススタンド(A)のネジ部(a1)に、アジャスター(B)を取り付けます。



2

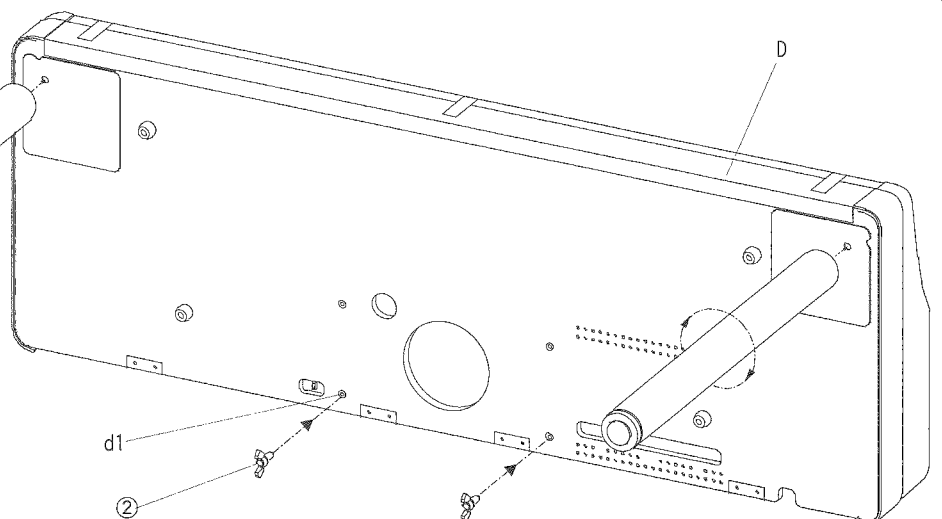
本体取付金具(C)をドライバーを使って図のようにビス①でボックススタンド(A)に固定します。取付金具はビス穴にへこみのある方を上にし、なおかつスリット部(c1)が後方にくるようにして、スタンドの(a2)にしっかりと押し当ててビスを止めます。



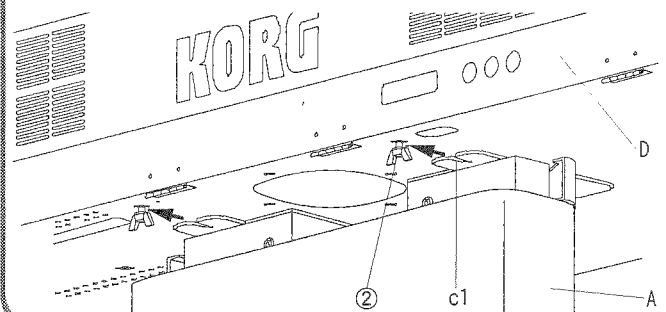
3

キーボード本体(D)底面のネジ穴(d1)に蝶ネジ②を取り付けます。このとき強く止めないでキーボード本体と蝶ネジの間隔は5-6mm程度あくようにしてください。

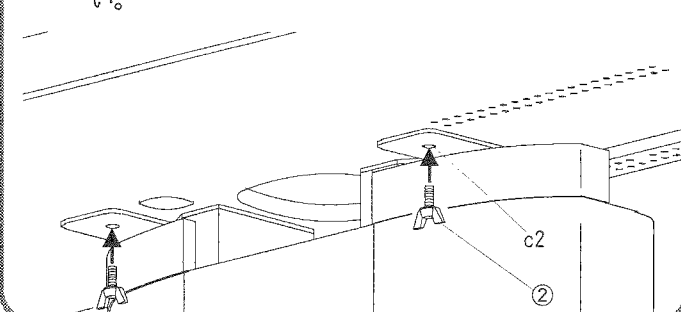
そして、パイプ足(G)をキーボード本体にねじ込みます。無理に斜めにねじ込みますとネジ山を痛める恐れがありますので注意してください。



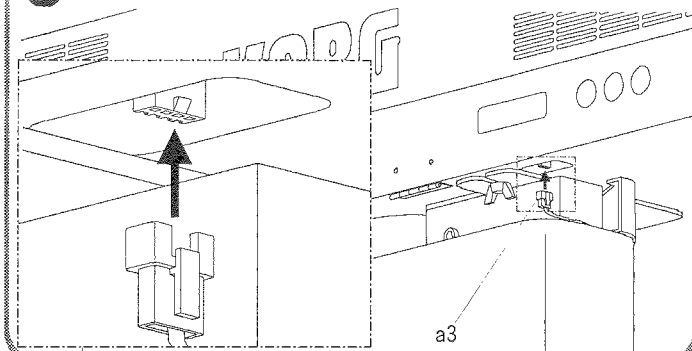
4 ボックススタンド (A) をキーボード本体 (D) に取り付けます。取付金具のスリット部 (c1) に蝶ネジ②をスライドさせてはめ込んでください。



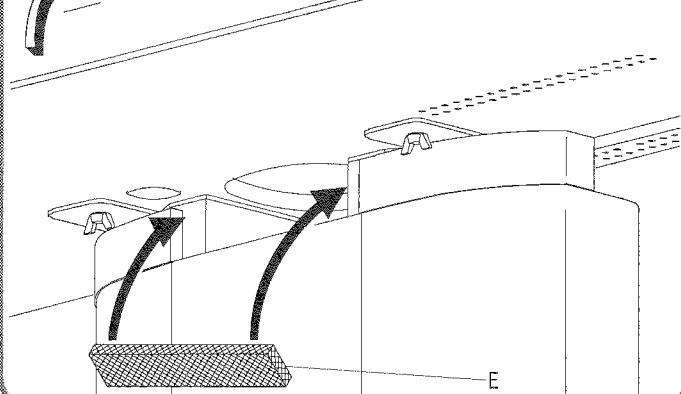
5 キーボード本体のネジ穴と、取付金具前方の穴 (c2) が合うように注意しながら蝶ネジをねじ込み固定します。続いて、後方の蝶ネジもしっかり固定してください。



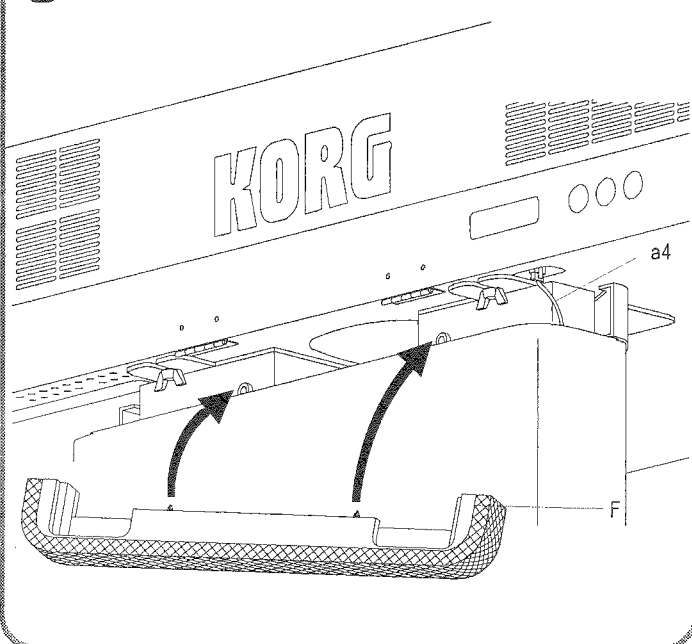
6 コネクター (a3) を接続します。コネクターの差し込み方向に注意してください。



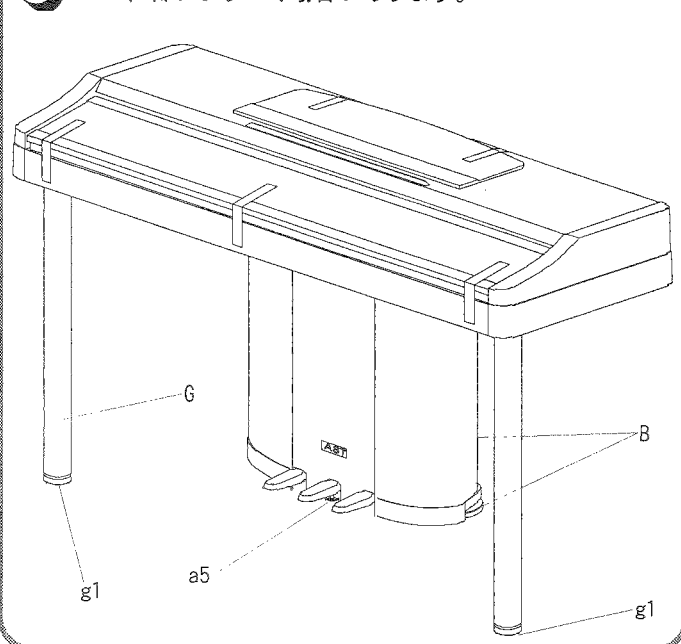
7 フロントネット (E) を図の位置に取り付けます。



8 リアネット (F) を図の位置に取り付けます。この時リアネットにケーブル (a4) を挟み込まないように注意してください。

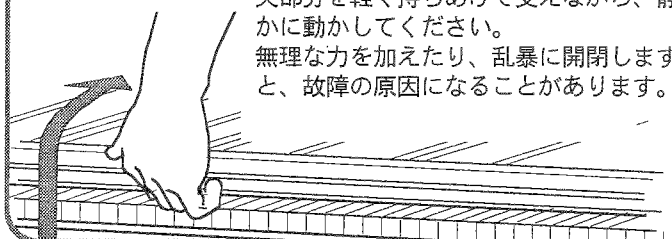


9 各アジャスター (a5, B, g1) を床にきちんと接触して安定するように調節してください。きちんと調節されていないと、音がびりつく場合があります。



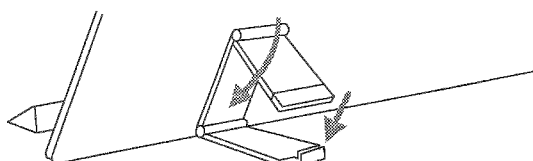
●キーカバーの開閉 (C-45/C-55/C-55S)

キーカバーを開閉するときは、ヘリの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに動かしてください。無理な力を加えたり、乱暴に開閉しますと、故障の原因になることがあります。



●譜面立ての立て方 (C-45/C-55/C-55S)

譜面立てを起こしたあと、裏側に付いている2つのストッパーを起こして、倒れないように支えてください。



C-55S 用スタンドの組み立て方

●組み立てには、+(プラス)のドライバーが必要です。ご用意ください。

●箱を開けたら、各部品が揃っているか確認してください。

- A. サイドボード(右).....1
- B. サイドボード(左).....1
- C. スタンドベース(右).....1
- D. スタンドベース(左).....1
- E. ペダルケーシング.....1
- F. リアボード(大).....1
- G. リアボード(小).....1

- ①. ジョイントコネクター...4x
- ②. 長いネジ(ゴールド).....4x
- ③. 長いネジ(ブラック).....4x
- ④. 短いネジ.....8x
- ⑤. キャップ.....4x
- ⑥. ノブボルト.....4x

●ピアノ本体のキーカバーのテープと譜面立てのテープは、完全にセッティングが終了するまではがさないでください。

- 1** サイドボード(A)(B)にジョイントコネクター①を取り付けます。コネクターは表面矢印が拡大図の向きになるようにドライバーで位置合わせをしてください。そして、(A)とスタンドベース(C)、(B)と(D)をネジ②で固定します。
- 2** (A)(B)にペダルケーシング(E)をネジ③で固定します(キャップ⑤は全てのネジ止めが終了してからはめます)。
- 3** リアボード(F)(G)をネジ④で固定します。

- 4** コードはたるまないよう、図のように止めてください。

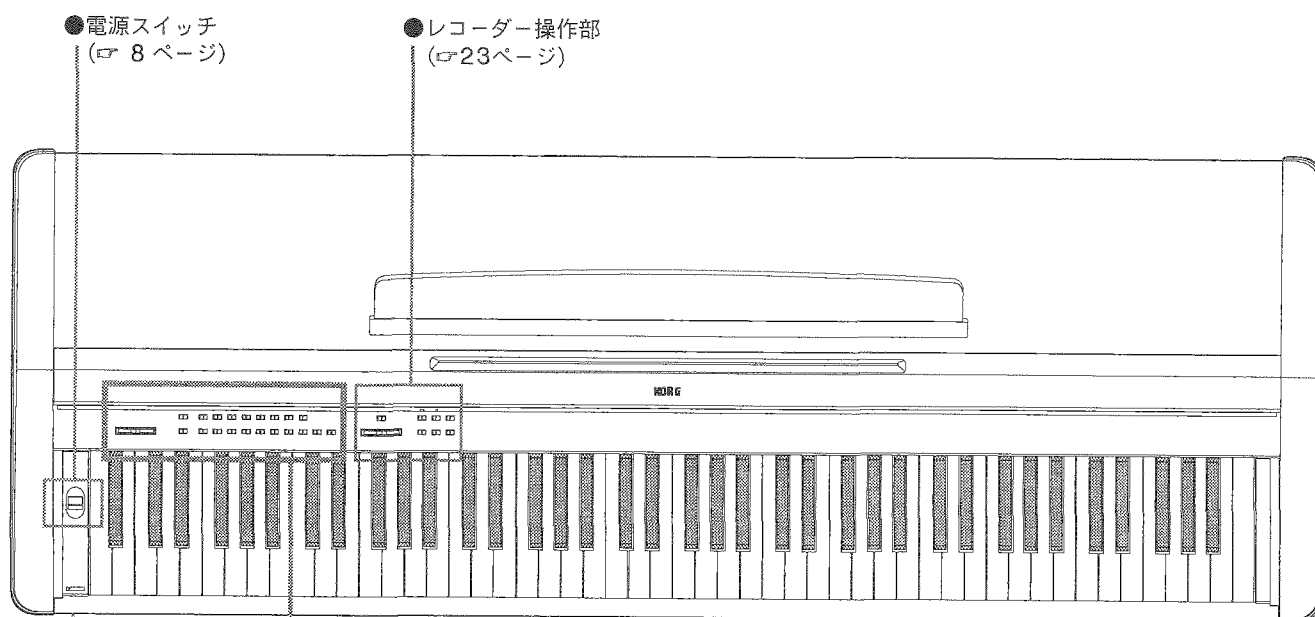
- 5** ピアノ本体をサイドパネル上部の金具(a, b)にあわせて後方より手前にスライドさせて固定し、金具の穴をあわせてノブボルト⑥で止めます。

- 6** コネクター(h)を接続します。コネクターの差し込み方向に注意してください。

- 7** ペダルケーシング底部のアジャスター(e)を、床に接触するまで調節してください。きちんと調節されていないと、音がびりつくことがあります。

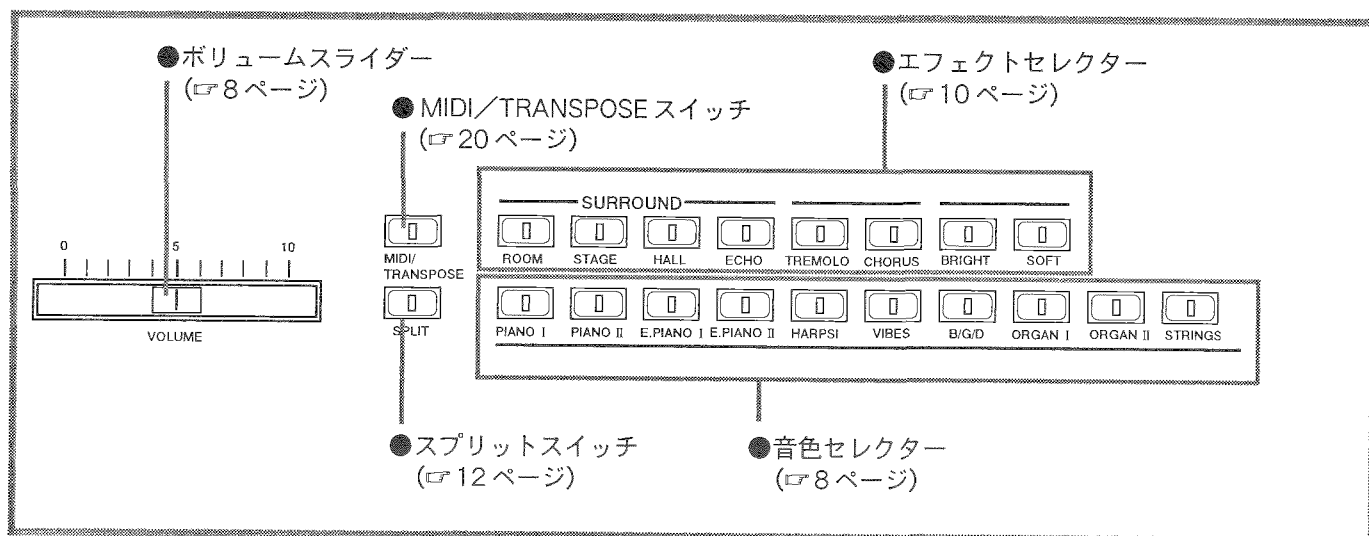
各部の名称

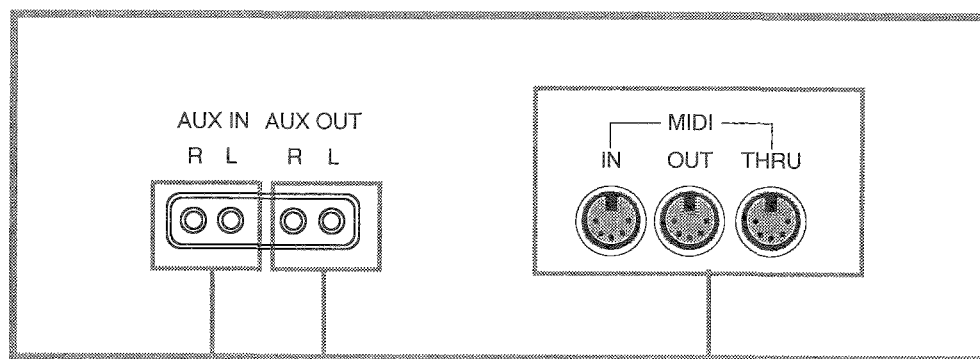
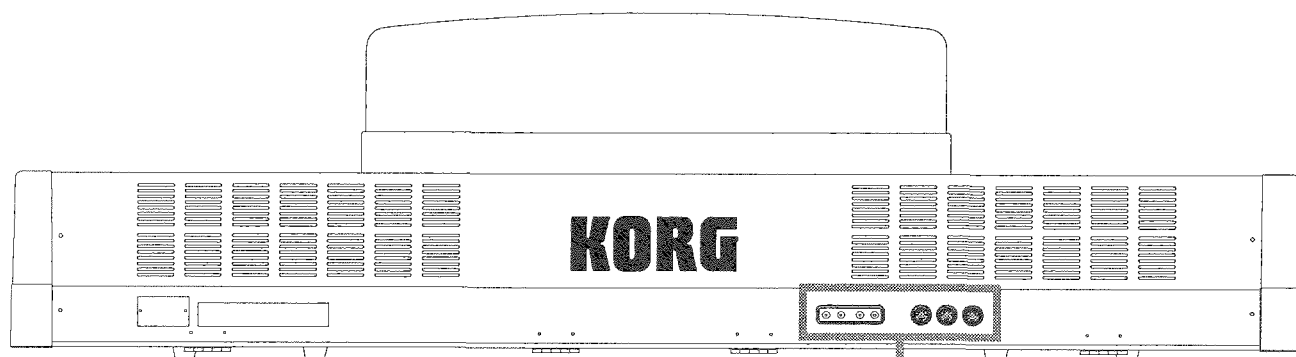
フロントパネル



●ヘッドホン端子

ステレオ・ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンを接続しますと、本体のスピーカーからは
音が出ませんので、夜間でも自由な音量で演奏をお楽
し頂けます。





● AUX IN 端子 (L, R)

シンセサイザーやリズムマシンなどを接続して、C-45/C-55/C-55S 本体のスピーカーから音を出すための端子です。音量は、接続した楽器のボリュームで調節してください。

● MIDI 端子 (IN, OUT, THRU)

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどの MIDI 機器を接続して、情報を交換するための端子です。別売の MIDI ケーブルを用いて接続してください。(P.34 ページ)

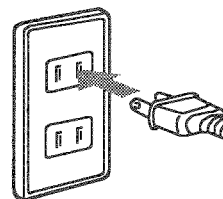
● AUX OUT 端子 (L, R)

ご家庭のオーディオ機器などに接続して、ライブ感覚の演奏をお楽しみください。この端子と、オーディオ機器などの AUX IN 端子を接続します。また、演奏を録音したいときにも使用します。音量は、本機のボリュームで調節してください。

弾いてみましょう

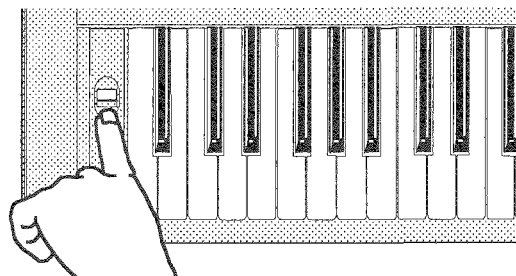
1.コンセントにプラグを差し込んでください

コンセントに AC 電源コードのプラグを差し込んでください。



2.電源スイッチを入れてください

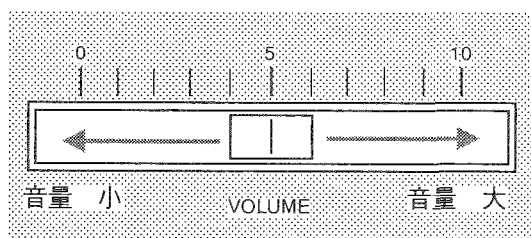
本体鍵盤左側の電源スイッチを押してください。まず初めに音色セクター PIANO I のランプが点灯し、PIANO I の音色が自動的に選ばれます。約 2 秒後に音の出る状態になります。



3.ボリュームを調整してください

ボリュームスライダーで音量を調整します。スライダーを左いっぱい (0 の位置) に寄せた状態では、音が出ません。右へ移動するにしたがって音量が大きくなります。

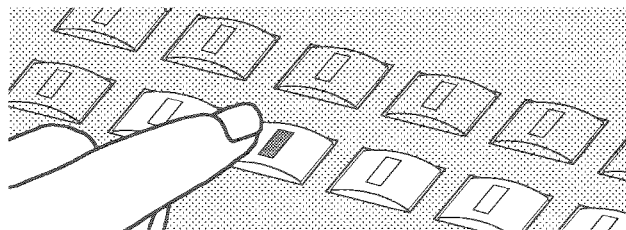
- このボリュームスライダーは、C-45/C-55/C-55S 本体のスピーカーの音量と、リアパネルの AUX OUT 端子から出力される音量の両方に作用します。



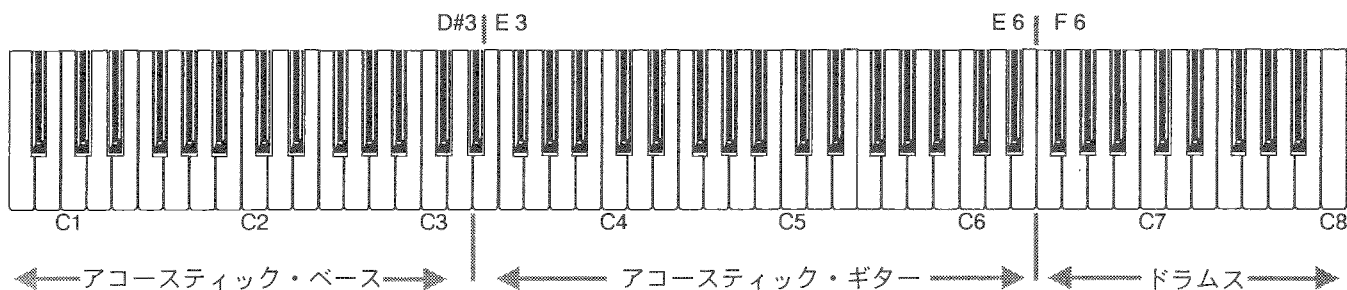
音色を変えて弾いてみましょう

音色を変えたいときは、弾きたい音色の音色セクターを押してください。

押されたセクターのランプが点灯して、その音色が選択されたことを示します。

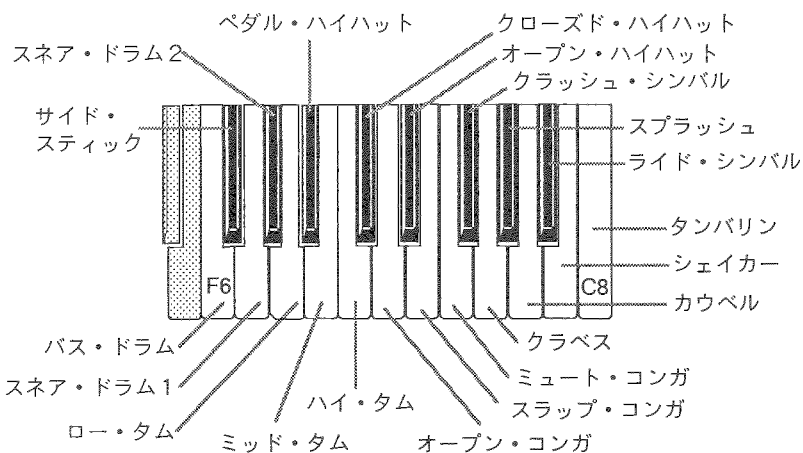


- PIANO I (ピアノ 1) ……明るく華やかに響くアコースティックピアノの音色です。
- PIANO II (ピアノ 2) ……重みのある、落ち着いた感じのアコースティックピアノの音色です。
- E.PIANO I (エレクトリック・ピアノ 1) ……軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音色です。
- E.PIANO II (エレクトリック・ピアノ 2) ……深く暖かみのあるエレクトリック・ピアノの音色です。
- HARPSI(ハープシコード) ……クラシックな趣きのある、リアルなハープシコードの音色です。
- VIBES(バイブ) ……まろやかなビブラフォンの音です。
- B/G/D(ベース/ギター/ドラム) ……アコースティック・ベース、アコースティック・ギター、ドラムスの音色が、下の図のように鍵盤上に配列されています。



注意：上記の配列は、トランスポーズ操作によって全体的に左右に移動します。
トランスポーズについては、20 ページ『トランスポーズ機能』をご覧ください。

- ドラムスの音色は、それぞれ次のように鍵盤と対応しています。



MIDI ノートナンバー	音色名 (楽器名)
89 (59H)	バス・ドラム
90 (5AH)	サイド・スティック
91 (5BH)	スネア・ドラム 1
92 (5CH)	スネア・ドラム 2
93 (5DH)	ロー・タム
94 (5EH)	ペダル・ハイハット
95 (5FH)	ミッド・タム
96 (60H)	ハイ・タム
97 (61H)	クローズド・ハイハット
98 (62H)	オープン・コンガ
99 (63H)	オープン・ハイハット
100 (64H)	スラップ・コンガ
101 (65H)	ミュート・コンガ
102 (66H)	クラッシュ・シンバル
103 (67H)	クラベス
104 (68H)	スプラッシュ
105 (69H)	カウベル
106 (6AH)	ライド・シンバル
107 (6BH)	シェイカー
108 (6CH)	タンバリン

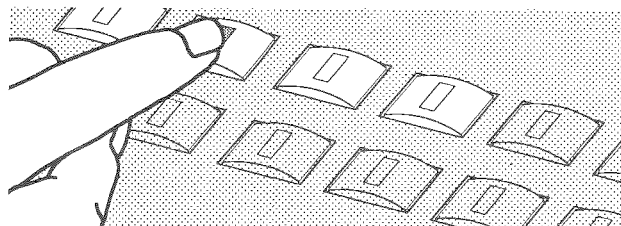
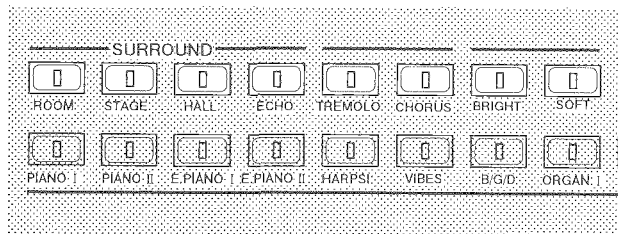
- ORGAN I (オルガン 1) ……荘厳なパイプ・オルガンの音色です。
- ORGAN II (オルガン 2) ……歯切れのよいジャズ・オルガンの音色です。
- STRINGS(ストリングス)※ ……バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音色です。

※の音色は、打鍵のしかた(タッチ)によって、音の立ち上がりや減衰のしかたが変化します。歯切れよくスタッカートぎみに弾くと立ち上がりや減衰の素早い音になり、ゆったりとレガートぎみに弾くと立ち上がりや減衰のゆっくりした音になります。

音色にエフェクトをかけてみましょう

C-45/C-55/C-55Sは、演奏にさらに多彩な色合いと臨場感をプラスするために、一つ一つの音色に対して様々なエフェクト(効果)を与えることができます。

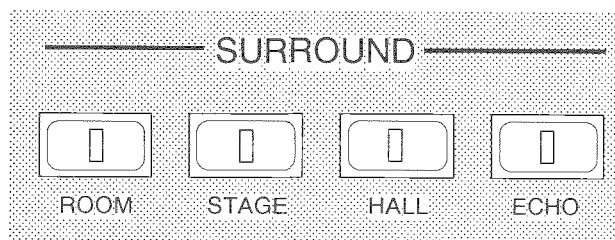
エフェクトセレクターを押すと、押されたセレクターのランプが点灯して、そのエフェクトが選択されたことを示します。



エフェクトには大きく分けてサラウンド系、モジュレーション系、イコライザー系の3つの系統があり、それぞれの系統のなかから一つずつのエフェクトを選んで、最大3種類までのエフェクトを同時にかけることができます。

1. サラウンド系のエフェクト

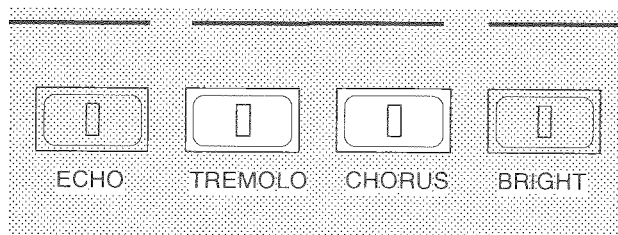
サラウンドとは、音に残響をあたえ、心地よいサウンドにする効果のことです。臨場感あふれるゴージャスな響きをお楽しみください。セレクターによって、4種類の効果が選べます。



- ROOM (ルーム)……小さな部屋のなかで演奏したときの響きが得られます。
- STAGE (ステージ)……ホールのステージで演奏しているのと同じような響きが得られます。
- HALL (ホール)……ホールの客席で演奏を聞いているのと同じような響きが得られます。
- ECHO (エコー)……反響音が返ってくるように聞こえる効果が得られます。

2. モジュレーション系のエフェクト

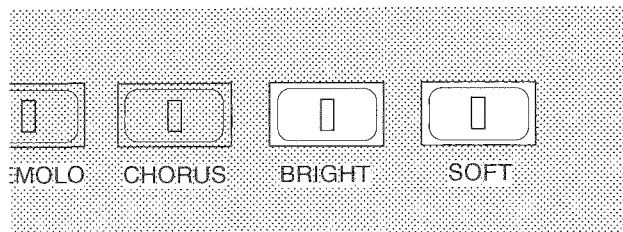
モジュレーションとは、音にうねりを与え、広がりのある豊かなサウンドにする効果のことです。セレクターによって、2種類の効果が選べます。



- TREMOLO (トレモロ)……左右に音が行き交うような効果が得られます。
- CHORUS (コーラス)……音が広がるような効果が得られます。

3.イコライザー系のエフェクト

イコライザーは、音質を変化させて、サウンドに固さや柔らかさ、暗さ・明るさなどの雰囲気を与えます。セクターによって、2種類の効果が選べます。



- BRIGHT (ブライト) ……高音と低音の強調された、きらびやかで迫力のある音になります。
- SOFT (ソフト) ……高音を押えた、甘く丸い音になります。

- エフェクトは、音色セクターで選択された音色の一つ一つにたいして、それぞれ個別に設定することができます。ある音色に対して一度エフェクトを選択しておく、以後その音色を選択するたびに、自動的に同じエフェクトが選択され、常にその音色に応じて設定されたエフェクトをかけながら演奏することができます。

- すでに設定されているエフェクトを解除したいときには、選択されている(ランプが点灯している)エフェクトセクターを再び押しますと、ランプが消えて、そのエフェクトのかかっていない状態に戻ります。
- それぞれの音色に対して設定されたエフェクトは、電源を切ってもそのまま記憶され、新たに設定しなおす変わりません。

二つの音色を同時に試してみよう

C-45/C-55/C-55Sは、音色セクターによって選んだ音色に、さらにもう一つ好きな音色をつけ加えて、異なる二種類の音色で同時に演奏をすることができます。一つの鍵を弾くと、同時に二つの音色が鳴るよう（レイヤー・モード）にしたり、あるいは88の全鍵を、好きな位置から「高音側」と「低音側」の2つの領域に大きく分けて、それぞれの領域で別々の音色が鳴るよう（スプリット・モード）にすることができます。

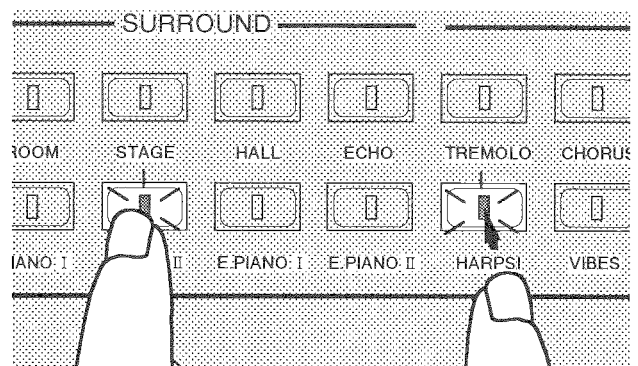
- レイヤー・モードやスプリット・モードに対して、通常の、全鍵にわたって一つの音色だけで鳴る状態のことを、シングル・モードと呼びます。

レイヤー・モード（一つの鍵から同時に2種類の音を出す）

同時に鳴らしたい2つの音色の、一方の音色の音色セクターを押えたまま、もう一方の音色の音色セクターを押してください。両方の音色セクターのランプが同時に点灯して、レイヤー・モードになったことを示します。

レイヤー・モードの状態では、同じ一つの鍵から、異なる2種類の音色が重なって出てきます。同時にC-45は8音 C-55/C-55Sでは16音まで発音します。

- スプリット・モード、またはシングル・モードに移ると、レイヤー・モードは自動的に解除されます。



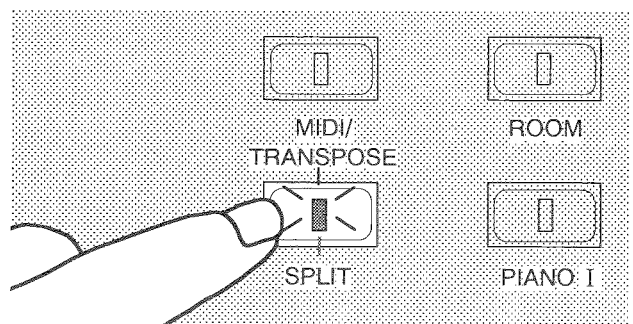
音色セクターをどれか一つだけ押しますと、そのままシングル・モードに移ります。

スプリット・モード（高音鍵と低音鍵とで異なった音色を出す）

はじめに、シングル・モードの状態にしておいて、鍵盤の高音側で鳴らしたい音色を、音色セクターを押して選んでおきます。

SPLITスイッチを押してください。SPLITスイッチのランプが点灯して、スプリット・モードになったことを示します。

低音側の鍵盤は、以前スプリット・モードで設定されていた音色で鳴るようになります。音色を変更したいときは、次の **音色を変更するには** を参照してください。



- SPLITスイッチを再び押すと、ランプが消えて、スプリット・モードは解除されます。鍵盤上には、高音側に選択されていたほうの音が、シングル・モードとして残ります。

音色を変更するには

スプリット・モードで音色を変えたいときには、まず高音側で弾きたい音色の音色セクターを押えておいて、低音側で弾きたい音色の音色セクターをいっしょに押してください。両方のセクターのランプが同時に点灯して、それぞれの音色が選択されたことを示します。シングル・モードのときのように、弾きたい音色の音色セクターを一つだけ押しますと、高音側の音色だけを変えることができます。押されたセクターのランプが点灯して、その音色が選ばれたことを示します。

音色の領域を変更するには

スプリット・モードで高音域、低音域のそれぞれの音色の音域を±3オクターブ変えることができます。

●低音側の音色の音域変更

オクターブ・アップ

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら A#0 の鍵を押します。

オクターブ・ダウン

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら A0 の鍵を押します。

鍵を押すごとに1オクターブずつアップ、ダウンします。

●高音側の音色の音域変更

オクターブ・アップ

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら C8 の鍵を押します。

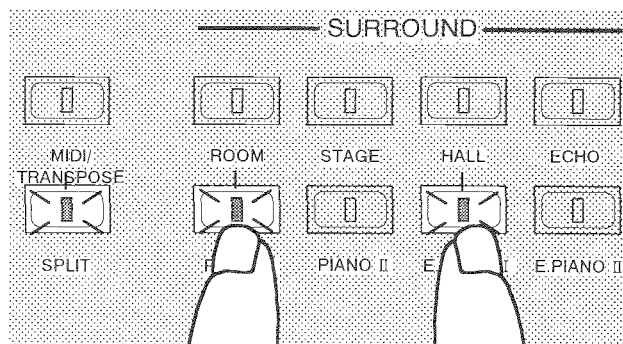
オクターブ・ダウン

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら B7 の鍵を押します。

鍵を押すごとに1オクターブずつアップ、ダウンします。

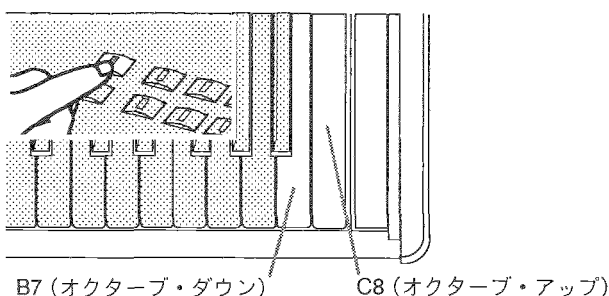
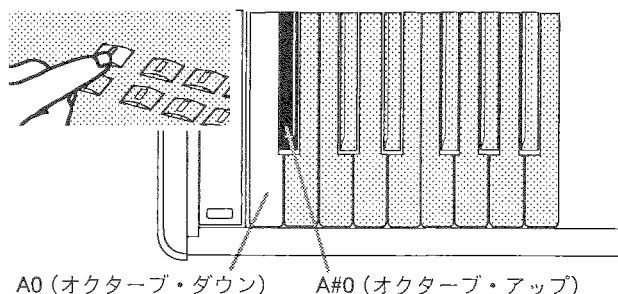
注意

低音側の音色をオクターブ・アップしたり、高音側の音色をオクターブ・ダウンした場合に、低音側は下のオクターブが、高音側は上のオクターブがオクターブ・アップ、ダウンした数だけ繰り返されます。



注意

高音側と低音側の音色を入れ替えたい時は、一度高音側の音色をかえてから設定しなおしてください。



注意

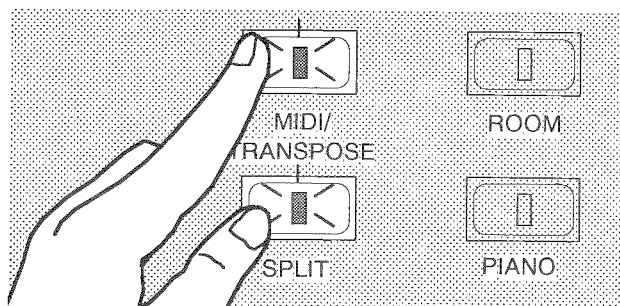
MIDI に送信されるノート・ナンバーは、オクターブ・アップ、ダウンしても変更されません。低音側、高音側のそれぞれの変更した音域は、それぞれの音色を変更したり、スプリッド・モードを解除しても記憶されます。電源を入れた直後は音域を変更していない状態になります。

二つの音色の分かれる位置を変えるには

スプリット・モードにおいて、高音側と低音側の二つの音色が鍵盤上で分かれる境目の位置を、スプリット・ポイントと呼びます。スプリット・ポイントは、次の手順で変更することができます。

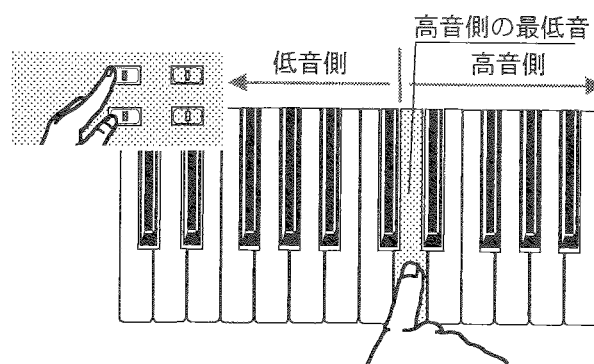
操作

1. MIDI/TRANPOSE スイッチを押さえながら、SPLIT スイッチを押さえます。



2. 両方のスイッチを押さえたまま、高音側の領域の最低音として設定したい音の鍵を押してください。

押した鍵よりも下の(低い)鍵盤が「低音側」の範囲として設定され、それよりも上の(高い)鍵盤が「高音側」の範囲として設定されます。



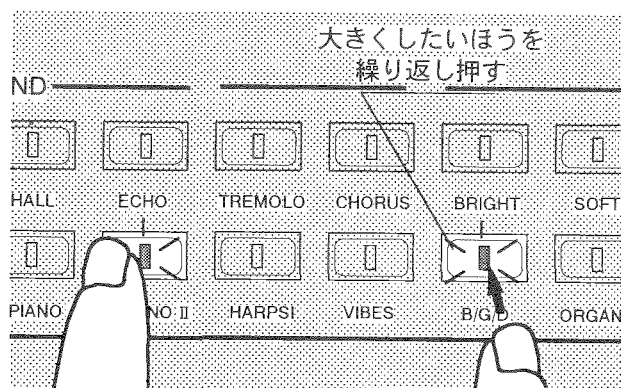
スプリット・ポイントは、スプリット・モードを解除して、シングル・モードやレイヤー・モードに移ったあとでも記憶されています。

二つの音色のボリュームのバランスを変える

レイヤー・モードやスプリット・モードにおいて、選択されている2種類の音色の、音量のバランスを変えることができます。

選択されている二つの音色の音色セクター(ランプが点灯しています)のうち、音量を小さくしたいほうのセクターを押えたまま、音量を大きくしたいほうの音色セクターを繰り返し押ししてください。

繰り返し押ししているほうの音色のボリュームが、徐々に大きくなってきます。好みのバランスになるように調節してください。



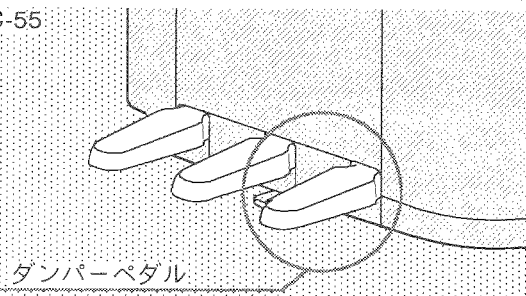
ボリューム・バランスは、スプリット・モードやレイヤー・モードを解除したあとでも記憶されています。

ペダルを試してみましょう

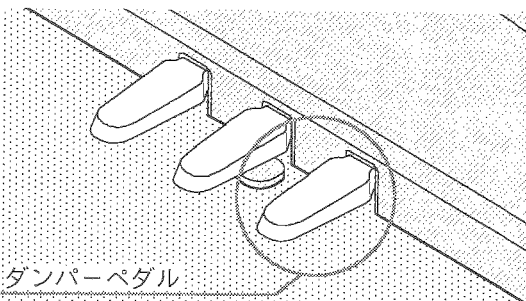
ダンパー効果

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。アコースティックピアノのダンパーペダルを踏んだときと同じような効果があります。

C-45/C-55



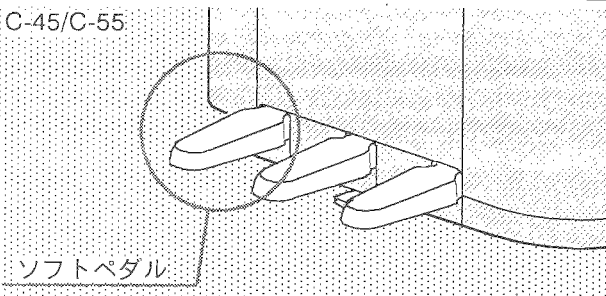
C-55S



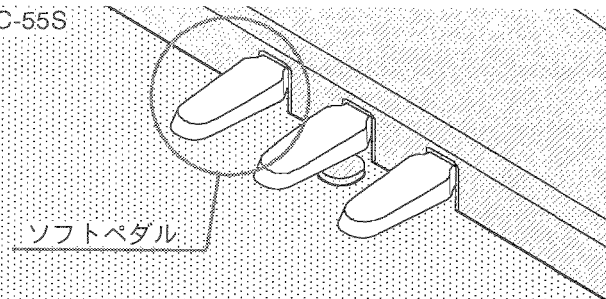
ソフト効果

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。アコースティックピアノのソフトペダルを踏んだときと同じような効果があります。

C-45/C-55



C-55S

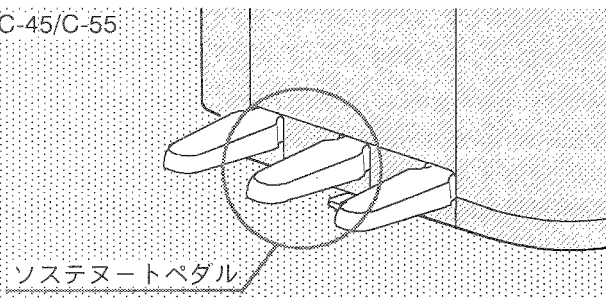


ソステヌート効果

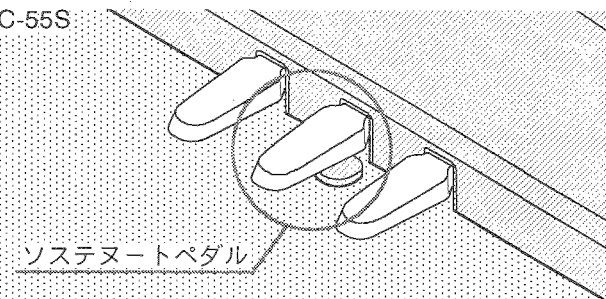
任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけることができます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間は、その音だけが長く伸びます。

ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音にたいしては、ソステヌート効果はありません。

C-45/C-55



C-55S

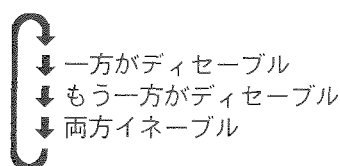


レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定

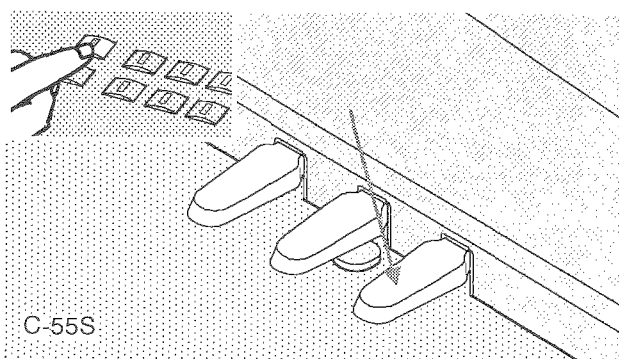
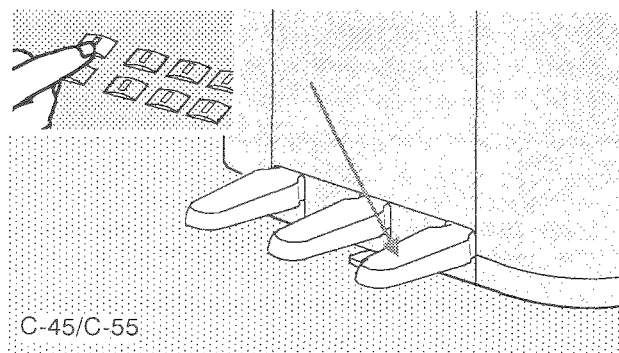
レイヤー・モードおよびスプリット・モードにおいては、選択されている二つの音色のうち、ペダルの効果がどちらの音色に対してかかるようにするかを、自由に設定することができます。

操作

1. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながらダンパー・ペダルを踏むと、選択されている二つの音色セレクターのうち、ペダルの効果がかからないよう（ディセーブル）になっているほうのセレクターのランプは消えて、効果がかかるよう（イネーブル）になっているほうのセレクターのランプは点灯し続けます。
2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押したままダンパー・ペダルを踏むたびに、ペダルの設定は



という順番で切り替わり、その状態は音色セレクターのランプで表示されます。ペダルを操作して、お好みの状態に設定しておいてください。



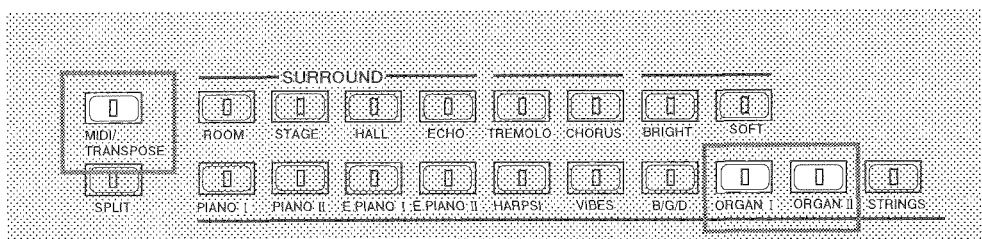
古典音律を使って演奏してみましょう

クラシック音楽には、古典的な調律法によって調律された楽器によって演奏されることを前提に作曲された作品が数多く残っています。C-45/C-55/C-55Sはこれらの曲の持つ本来の響きを再現するために、通常用いられる平均律とは別に、**キルンベルガー (kirnberger)** および **ヴェルクマイスター (Werckmeister)** という2種類の古典音律が設定できるようになっています。

調律法は、和音の響き具合を少しでも自然に、なおかつどんな調子に転調してもその響き具合が等しく保たれるように、古くからさまざまな調律法が工夫されてきました。キルンベルガーおよびヴェルクマイスターもそういった調律法として古典音楽の時代に発達しました。これらはいくつかのキー（調子）までは自然な響きを生じますが、となり合った二つの鍵盤（半音）間の音程が均一ではなく、調子が変わるごとに響き具合が変化し、使用できる範囲は限定されます。

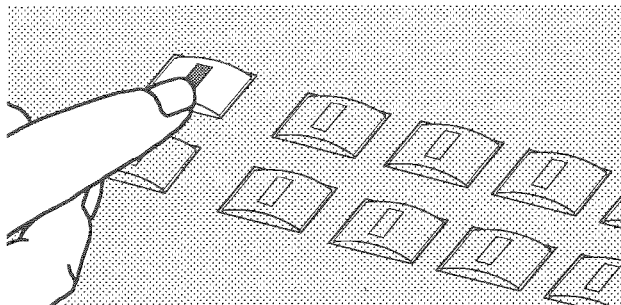
これに対して平均律は、倍音（それぞれの楽器の音色を決める、音の成分）の関係で3度の和音や5度の和音にわずかですが不自然な響きを生じますが、半音間の音程が常に等しい比率になるように各鍵盤の音程を設定していますので、どの調に対しても均一のスケールを持ち、変化なく同じように演奏することができます。

- 古典音律の設定には、MIDI/TRANPOSE スイッチ、および音色セクターの ORGAN I と ORGAN II のスイッチを使います。



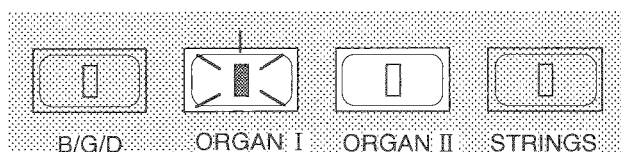
操作

1. MIDI/TRANPOSE スイッチを押してください。
現在、どの音律が選択されているかによって、音色セクターのランプが次のように点灯します。



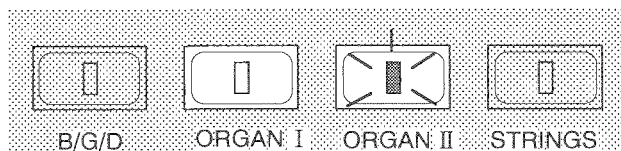
- キルンベルガー音律が選択されているとき

ORGAN I のランプが点灯します。



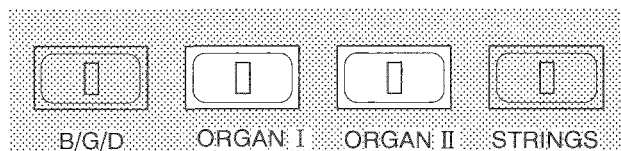
- ヴェルクマイスター音律が選択されているとき

ORGAN II のランプが点灯します。



- 平均律が選択されているとき

ORGAN I と ORGAN II の二つのランプは点灯しません。



- 電源を入れた直後は、自動的に平均律が選択されるようになっています。

2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、ORGAN I あるいは ORGAN II の音色セクターを押すたびに、それぞれの音律が、ON/OFF の状態に切り替わります。

選択された状態 …… (ランプが点灯します)



選択されない状態 … (ランプが消えます)

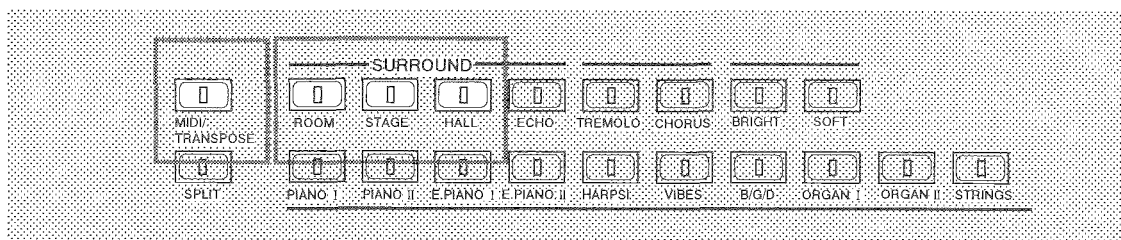
- ここで設定された音律は、電源を切るまでは変更されません。

タッチコントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱を3段階に切替えることができます。

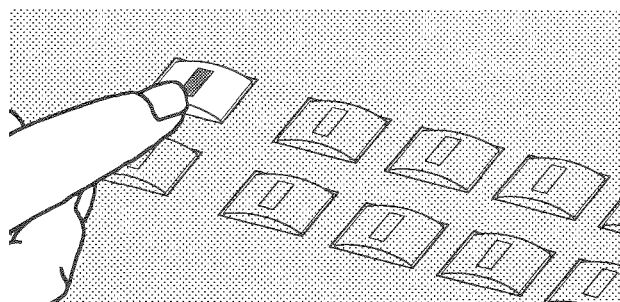
自然な感じのタッチ1、それよりも中くらいの強さで弾いた時に弾きやすさの出るタッチ2とタッチ3があります。

- タッチ コントロール機能の設定には、MIDI/TRANPOSE スイッチ、および音色セクターの ROOM、STAGE と HALL のスイッチを使います。



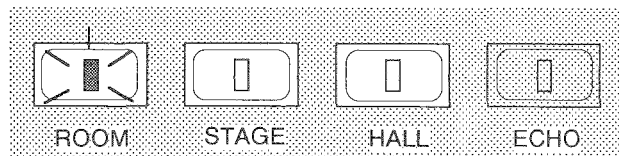
操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、各タッチコントロール設定スイッチを押します。



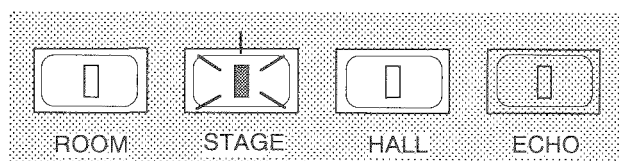
● タッチ 1

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら ROOM スイッチを押します。
ROOM のランプが点灯します。



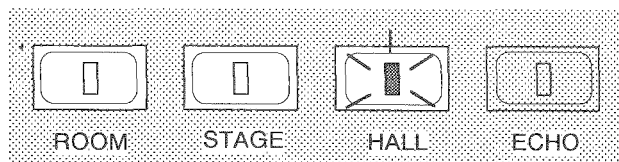
● タッチ 2

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら STAGE スイッチを押します。
STAGE のランプが点灯します。



● タッチ 3

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら HALL スイッチを押します。
HALL のランプが点灯します。



電源を入れた直後は、タッチ 1 に設定されます。

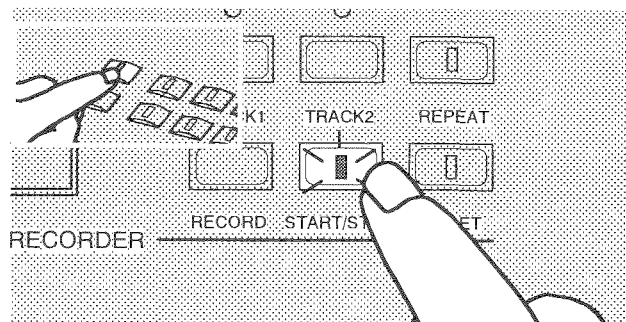
デモ演奏を聴いてみましょう

デモンストレーション演奏を聴いてみましょう。

操作

1. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら START/STOP スイッチを押すと演奏が始まります。
2. 演奏を終了するには、もう一度 START/STOP スイッチを押します。

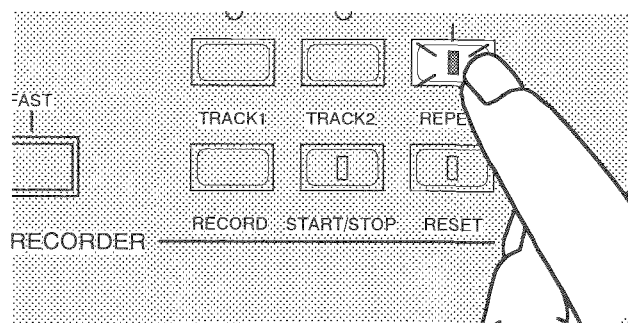
- デモ演奏中は、録音、およびバウンスの機能は使えません。



繰り返しデモンストレーション演奏をさせることができます。

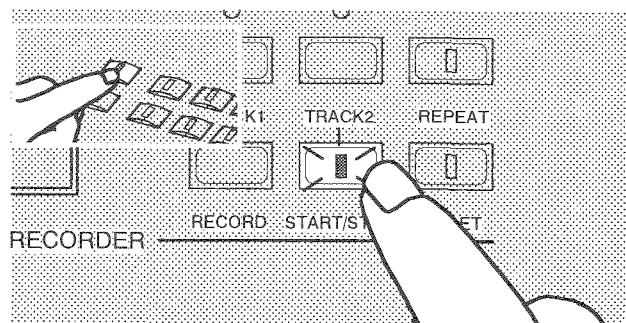
操作

1. REPEAT スイッチを押します。



2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、START/STOP スイッチを押すと演奏が始まります。

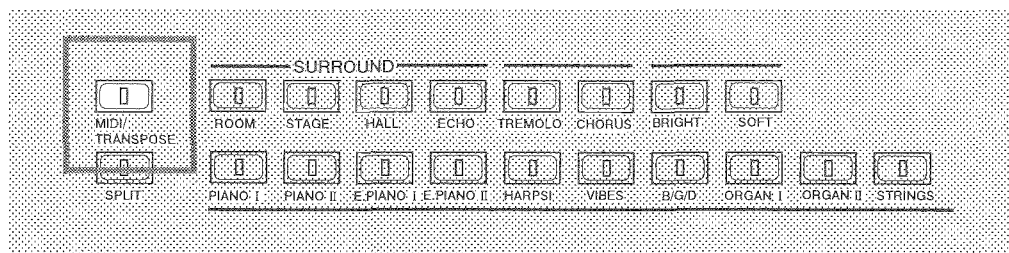
- リピート区間の設定はできません。



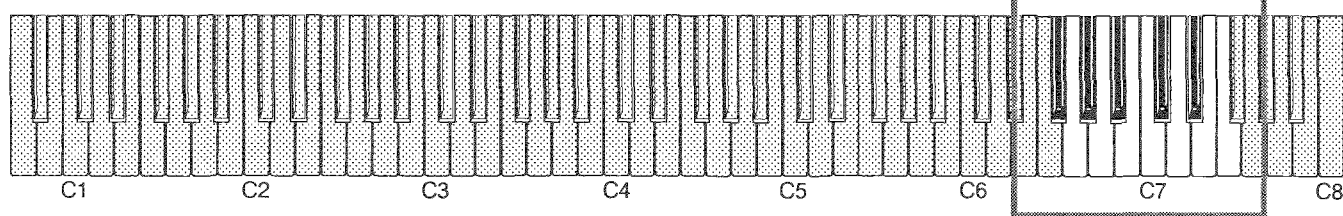
トランスポーズ機能

トランスポーズ機能とは、鍵盤を移調させる機能です。伴奏をするとき歌う人の声にあわせて移調したいときなどに大変便利です。上下それぞれに半オクターブまで変えることができます。

- トランスポーズの設定には、MIDI/TRANPOSE スイッチと、鍵盤上の F#6 から F7 までの部分を使います。鍵盤で指定した音の高さが C となるように、鍵盤全体の音の高さが移調されます。



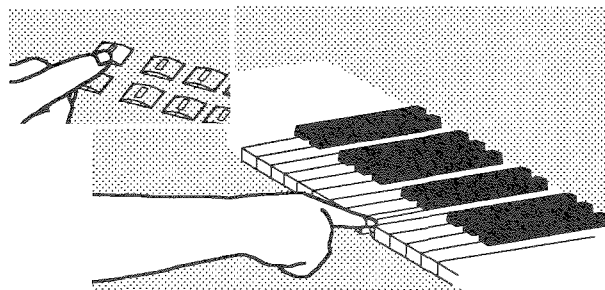
トランスポーズ設定用鍵盤 (F # 6 ~ F7)



操作

フロントパネル上の MIDI/TRANPOSE スイッチを押さえたままトランスポーズ設定用鍵盤を押えると、押えた鍵の音の高さが C7 鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

- C7 以外の鍵を押えた場合には、MIDI/TRANPOSE スイッチのランプが点灯して、トランスポーズ状態になっていることを示します。



試してみましょう 曲の調子を半音上げて演奏したいときには…

鍵盤全体の音の高さが半音だけ高くなるように、トランスポーズを設定してください。

すなわち、C7の鍵を押えたときにC#7の音が出てくるように、鍵盤全体の音の高さを移調させるわけです。

操作

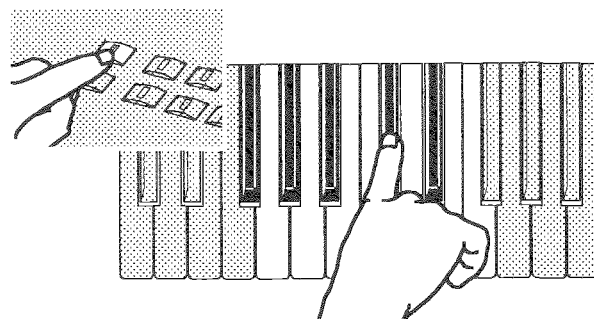
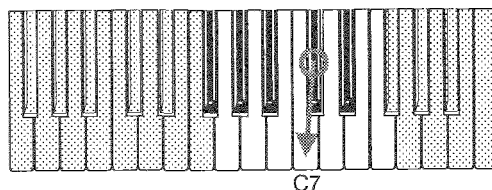
MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながらC7の鍵を押えてください。

MIDI/TRANPOSEスイッチのランプが点灯します。

そのまま鍵盤を演奏すると、出てくる音の高さは、鍵盤よりも半音だけ高くなっています。

鍵盤全体の音を半音だけ高くする

↓
C7鍵からはC#7の音が出る



試してみましょう キーがB♭の曲をGの指使いに直して弾きたいときには…

B♭の音は、Gの音からみて短3度の(半音3つ分だけ高い)音にあたります。

したがって、C7の鍵を押えたときには、C7よりも半音3つ分だけ高いD#7の音が出てくるように、鍵盤全体の音の高さを移調させればよいのです。

操作

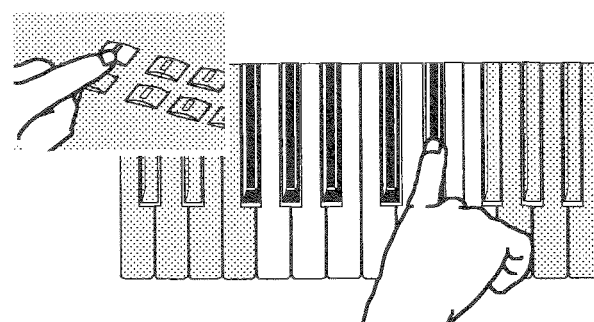
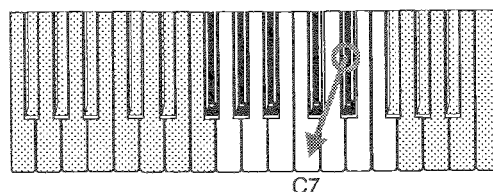
MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながらD#7の鍵を押えてください。

MIDI/TRANPOSEスイッチのランプが点灯します。

そのまま鍵盤でGの調子の曲を演奏すると、出てくる音は、B♭の調子になっています。

G鍵を押えたときにB♭の音が出る

↓
C7鍵からはD#7の音が出る



設定したトランスポーズを解除したいときは…

操作

MIDI/TRANPOSEスイッチを押して、トランスポーズ用鍵盤は押えずにそのままスイッチから手を離してください。

MIDI/TRANPOSEスイッチのランプが消えて、鍵盤は元の調に戻ります。

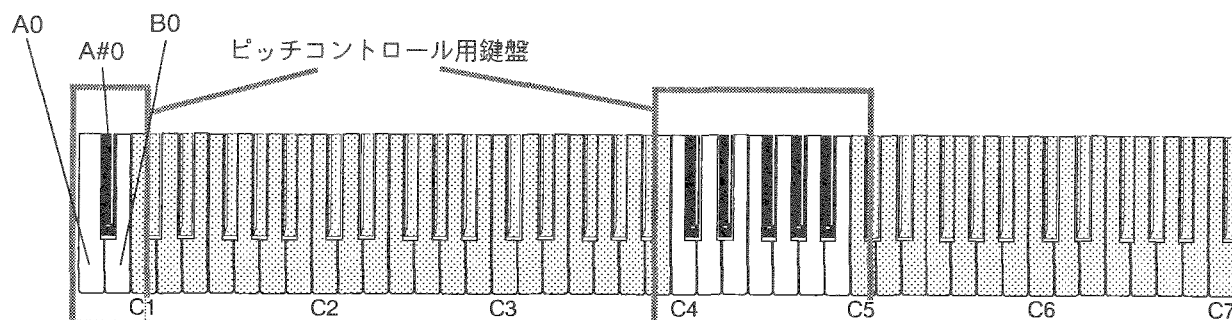
- トランスポーズの設定は、本体の電源を切ると自動的に解除されます。

ピッチコントロール

ピッチコントロールとは、ピッチ (音程) の微調整を行なう機能です。他の楽器とチューニングをあわせてアンサンブルを楽しむ時などに便利です。

± 50セント (1セントは半音の 100 分の 1) まで変更することができます。変更したチューニングは、本体の電源を切ると自動的に元に戻ります。(A4 = 440Hz)

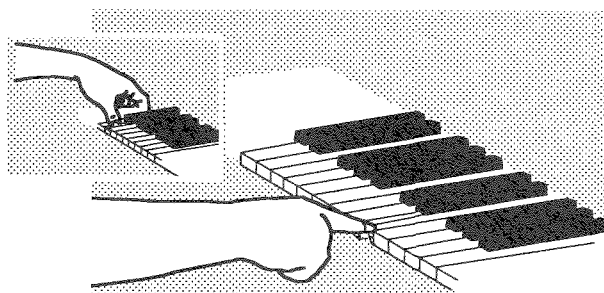
- ピッチの設定には、鍵盤上の A0、A#0、B0 の部分と、C4 から B4 までの部分を使います。



操作 ピッチを高くしたいときには…

A0 と B0 の鍵を押えながら、C4 から B4 までの間の、いずれか一つの鍵盤を押えてください。

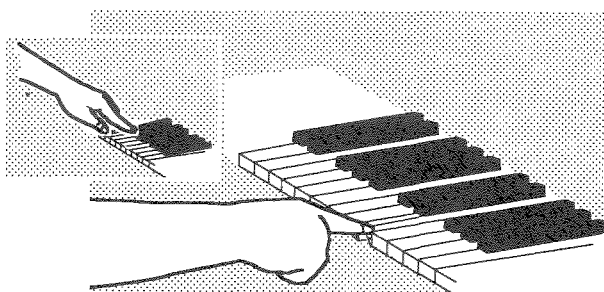
- いずれの鍵でも、一回押えるたびに約 1 セントずつピッチが高くなります。好みのピッチになるまで繰り返し押してください。



操作 ピッチを低くしたいときには…

A0 と A#0 の鍵を押えながら、C4 から B4 までの間の、いずれか一つの鍵盤を押えてください。

- いずれの鍵でも、一回押えるたびに約 1 セントずつピッチが低くなります。好みのピッチになるまで繰り返し押してください。



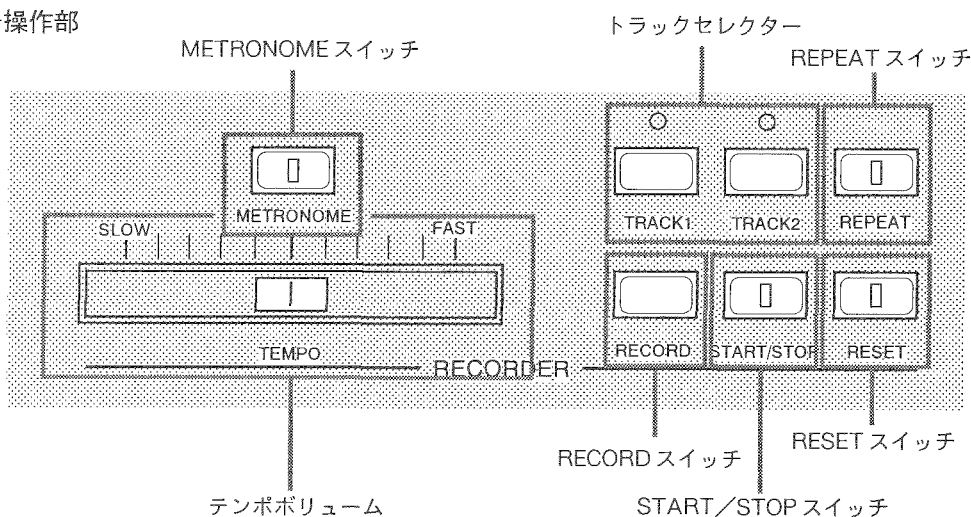
演奏を記録・再生してみましょう

C-45/C-55/C-55Sは、ちょうどテープレコーダーで録音するように、鍵盤の演奏を記録して再生できる機能（レコーダー機能）を内蔵しています。

テンポを変更すれば、記録したときと異なる速さで再生することもでき、しかもテープレコーダーと違って、再生する速さを変えても、音のピッチが変わりません。

レコーダーは2トラック方式になっており、あらかじめ一方のトラックに録音しておいたお手本の曲を聴きながら、もう一方のトラックに自分の演奏を録音して、後から両方を同時に再生して聴き比べることもできますし、後述するバウンス機能を使えば、初めに記録した演奏に、後から別の音色で、異なる演奏を付け加えていき、一人何役もの演奏を記録することもできます。

レコーダー操作部



演奏を記録してみましょう

演奏を記録するまえに、どちらのトラックに記録を行うかを決めておきます。

トラックとは、並行して走る2本の録音テープのようなもので、もちろんそれぞれのトラックに別々の曲を記録して、好きなほうを任意に再生することもできますし、一方だけを録音状態に、一方を再生状態にしてスタートさせれば、あらかじめ一方のトラックに録音しておいた演奏を聴きながら、それに合わせて新たに演奏した曲を、もう一方のトラックに録音することもできます。

例えば、連弾のふたり分のパートを、それぞれのトラックに分けて録音しておいて、一方のパートを再生しながら、もう一方のパートを練習する、といった使い方ができます。

操作

1. RECORDのスイッチを押しながら、TRACK 1またはTRACK 2のどちらかのセクターを押します。

2. 押されたほうのセクターの上のランプが赤く点灯して、そのトラックが録音用トラックとして選択されたことを示します。

3. START/STOPスイッチを押すか、もしくは鍵盤で演奏を始めると、録音が始まります。

録音している間は、START/STOPスイッチのランプと、RESETスイッチのランプが点灯しています。

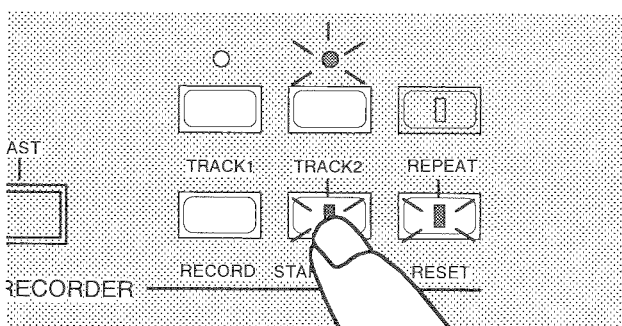
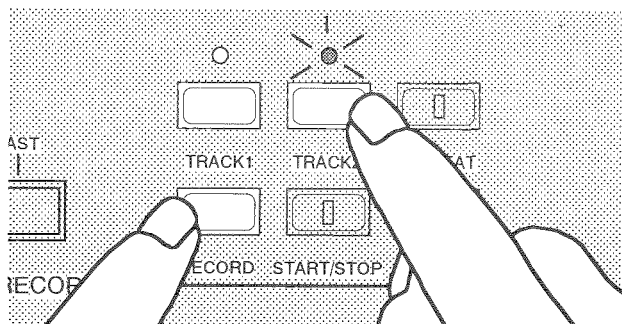
4. START/STOPスイッチをもう一度押しますと、録音が停止します。

録音を停止すると、START/STOPスイッチのランプが消えます。

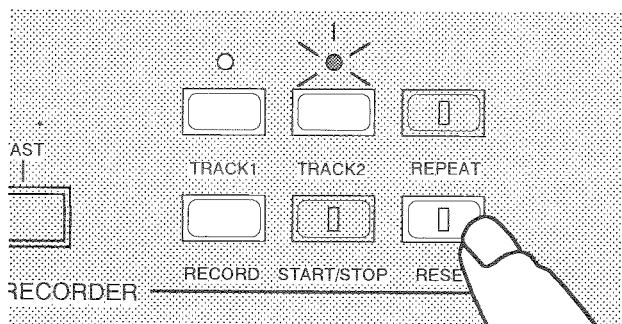
- 曲の初めから録音をもう一度やり直したいときは、RESETスイッチを押します。

RESETスイッチのランプが消えて、レコーダーは最初から録音できる状態に戻ります。あとは、1.からの手順にしたがって、もう一度初めから録音をやり直すことができます。

- 一度録音を停止した箇所から、つづけて曲の続きを録音したいときには、そのままRESETスイッチを押さずに、1.からの手順に従って録音します。



- 録音をしている最中に、音色を切り替えることはできません。



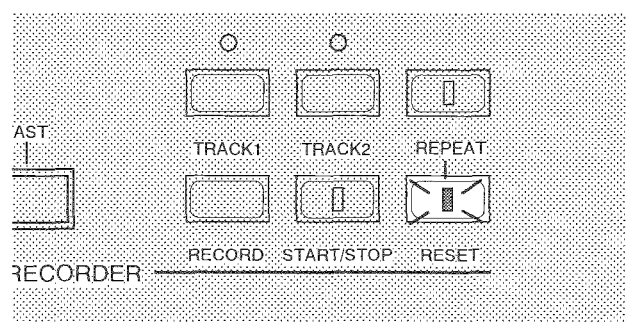
- 録音を停止しているときに、音色を切り替えて、新しい音色で曲の続きを録音した場合、この曲を再生しても、曲の途中で自動的に音色が変わることはありません。

かならず、録音を始める前に選択されていた音色で、最後まで再生されます。

リセットスイッチについて

RESET スイッチのランプが点灯しているときは、レコーダーが途中で録音や再生を一旦停止した状態になっていることを示しています。

このランプが点灯した状態のまま START/STOP スイッチを押しますと、レコーダーは一旦停止していたその箇所から、録音や再生を再開します。



RESET スイッチを押してランプが消えますと、レコーダーは曲の最初の位置に戻り、続けて START/STOP スイッチを押しますと、初めから録音や再生をやり直すことができます。

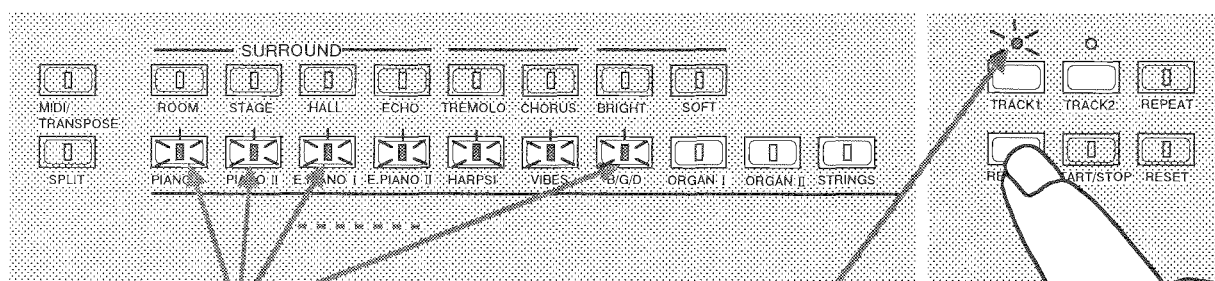
あとどのくらい録音できるか知りたいときには…

RECORD スイッチを押し続けると、音色セクター上に、いままで録音された演奏データの量が、セクターのランプの点灯する数で表示されます。

録音を続けるにつれて、ランプの点灯する数が多くなり、C-45/C-55/C-55Sの記憶装置（メモリー）のなかに、引き続き録音できる領域が少なくなったことを示します。

点灯していないランプがいくつあるか見ることによって、あとどのくらい録音できるのか、およその見当をつけることができます。

録音できる領域が、メモリーの残り 10 パーセント以下になると、トラックセクターの上のランプが赤く点滅します。



音色セクターのランプが、録音されたデータの量を示します。

メモリーの残量が 10 パーセント以下になると、赤いランプが点滅します。

記録した演奏を聴いてみましょう

操作

1. はじめに、TRACK 1とTRACK 2のうち、再生したいほうのトラックセレクトを押します。
押されたほうのトラックセレクトの上のランプが緑色に点灯して、そのトラックが再生用トラックとして選択されたことを示します。

- 両方のトラックを選択して、二つの演奏を同時に再生させることもできます。

2. もしも RESET スイッチのランプが点灯しているときは、RESET スイッチを押します。

RESET スイッチのランプが消えて、曲の初めから再生できる状態になります。

3. START/STOP スイッチを押しますと、選択されたトラックに記録されている演奏の再生が始まります。

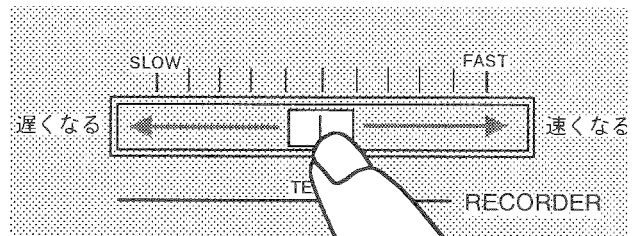
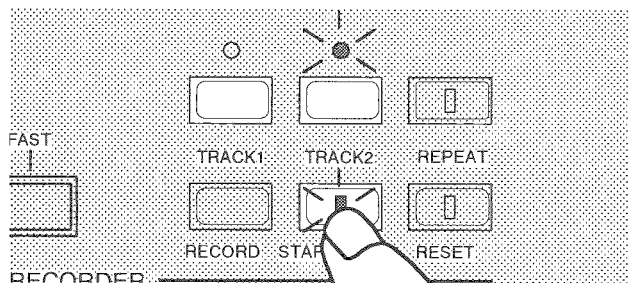
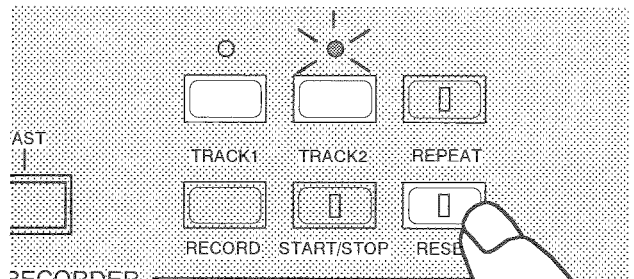
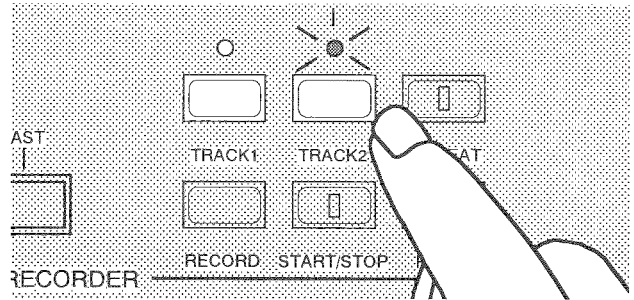
再生している間は、START/STOP スイッチのランプが点灯しています。

- テンポボリュームを操作して、再生するテンポを変えることができます。テンポボリュームは、左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

4. 再生を途中で一旦止めるには、START/STOP スイッチをもう一度押してください。

START/STOP スイッチのランプが消えて、再生が停止します。

- 続きを再生したいときは、そのままもう一度 START/STOP スイッチを押してください。一旦停止した箇所から再び演奏の続きが始まります。



- もう一度、曲の最初から再生したいときは、RESET スイッチを押してから、START/STOP スイッチを押してください。

注意

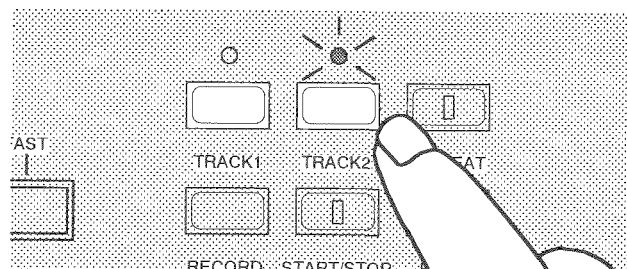
レコーダーで再生されている演奏データは、MIDI OUTからは出力されません。

リピート演奏を行うには

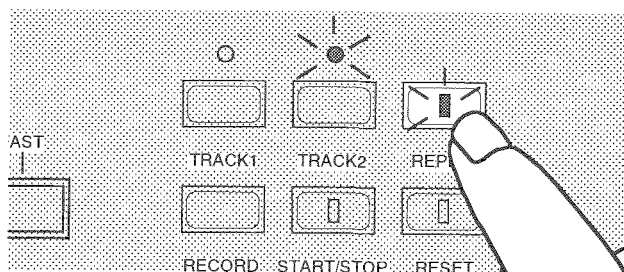
レコーディングした曲中の任意の範囲内、あるいは曲全体を繰り返し再生することができます。これは難しい曲や、特に難しい部分を繰り返し練習する場合などに大変便利です。

操作

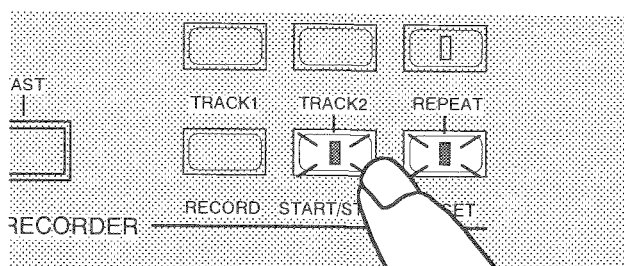
1. リピート演奏させたいトラックを再生モードにします。ランプが緑色に点灯します。



2. REPEATスイッチを押します。ランプが点灯します。



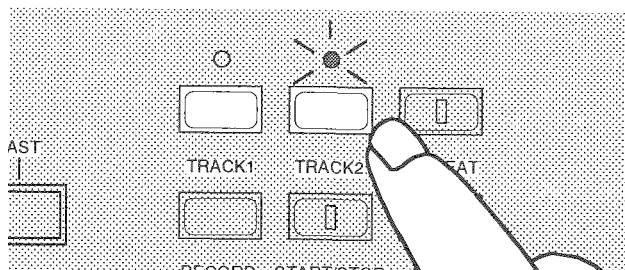
3. START/STOPスイッチを押すと、リピート区間を設定してある場合はその区間を、設定していない場合は録音したトラック全体をリピートします。



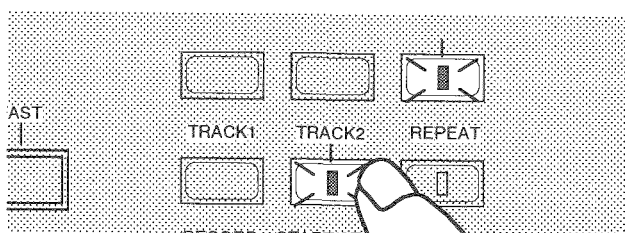
リピート区間の設定

操作

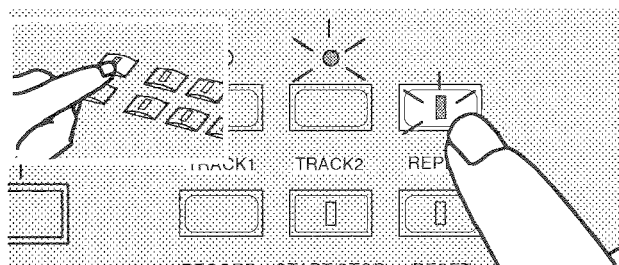
1. リピートしたいトラックを再生モードにします。



2. START/STOPスイッチを押して再生状態にします。



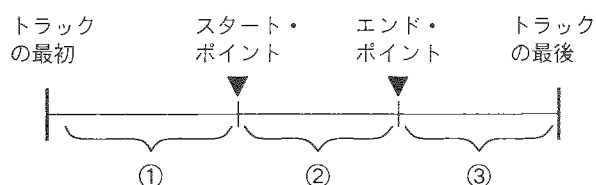
3. リピートさせたいところで MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチの LED が点灯し、スタートポイントが設定されました。



4. スタートポイントを設定した後、再生を続けていき、リピートエンドしたいところで、もう一度 MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチのランプが消灯し、エンドポイントが設定されます。

エンドポイント設定後、自動的に指定区間のリピート演奏が開始されます。

● 区間が設定されている場合に再び指定区間のリピート演奏に入るとき、REPEAT スイッチを押す位置により次のように指定区間のリピートが開始されます。



①の区間内るとき、現在位置からエンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

②の区間内るとき、現在位置からエンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

③の区間内るとき、現在位置からトラックの最後まで演奏してからトラックの最初に戻り、エンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

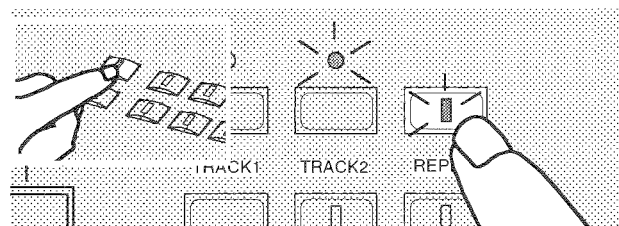
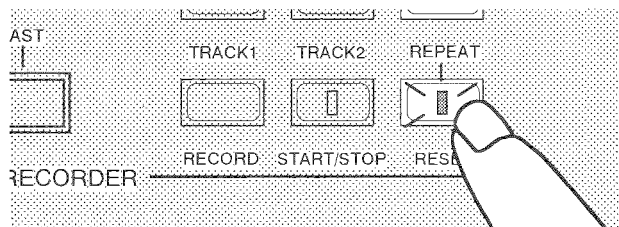
RESET スイッチを押したときは、トラックの最初にもどり、エンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

リピート区間の解除

設定してあるリピート区間を解除して、トラック全体をリピートさせます。

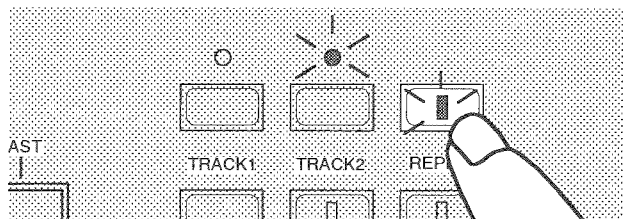
操作

1. STOP 状態にして RESET スイッチを押します。
2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチのランプが点灯し、スタートポイントが解除されます。



3. STOP 状態のままさらにもう一度 MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチのランプは消灯し、エンドポイントが解除されリピート区間全体が解除されます。

- リピート区間の設定は、TRACK1 と 2 のそれぞれ 1 区間ずつ設定できます。
- 設定したリピート区間は、電源を切っても記憶されています。



- 録音した (または、録音しなおした) 後のトラックや、バウンスした後の TRACK1 と 2 は、以前設定されたリピート区間があっても解除されます。

いろいろな録音機能

一方のトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには…

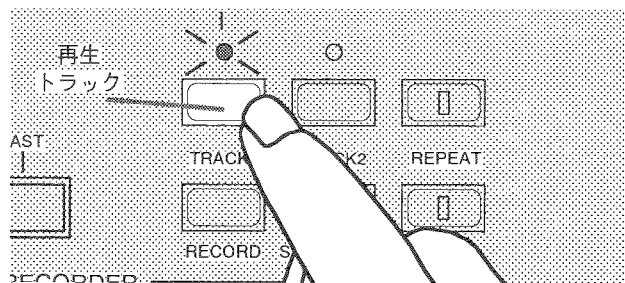
2つのトラックの一方を録音状態に、一方を再生状態にしておきますと、あらかじめ一方のトラックに録音しておいたパートを聴きながら、それに合わせて新たに別のパートを鍵盤で演奏し、それをもう一方のトラックに録音することができます。

はじめに左手のパートだけを一方のトラックに録音しておいて、それに合わせて右手のパートを練習したりすることもできますし、同じようにして、一人で連弾の練習をしたりすることもできます。

まず、**演奏を記録してみよう** の手順にしたがって、トラックのどちらか一方に、片方のパートを録音しておきます。

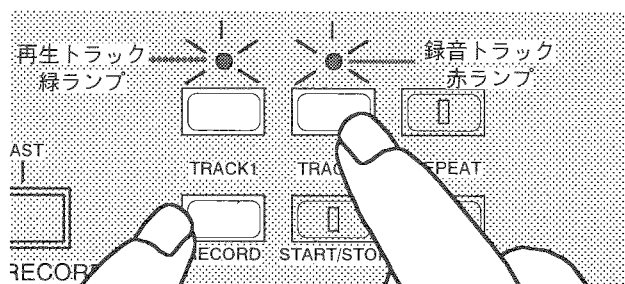
操作

1. あらかじめ録音をしておいたほうのトラックのセレクトターを押して、そのトラックを再生用トラックとして選択しておきます。



2. RECORD スイッチを押しながら、もう一方のトラックのセレクトターを押して、録音用トラックに設定します。

再生用トラックのセレクトターの上には緑色のランプが、録音用トラックのセレクトターの上には赤いランプが点灯しています。

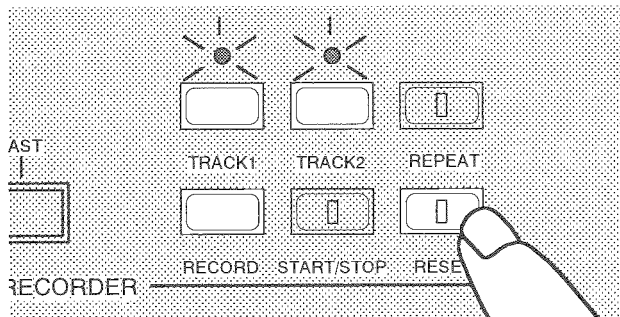


3. もしも RESET スイッチのランプが点灯しているときは、RESET スイッチを押します。

RESET スイッチのランプが消えて、曲の初めから演奏できる状態になります。

4. START/STOP スイッチを押しますと、一方のトラックが再生されると同時に、もう一方のトラックに演奏を録音できる状態になります。再生されている演奏を聴きながら、録音したいパートを演奏してください。

- 録音を途中で停止したり、また続けて録音を再開したり、初めから録音をやり直すときの操作は、通常の録音のときと同様です。**演奏を記録してみよう**の手順を参照してください。



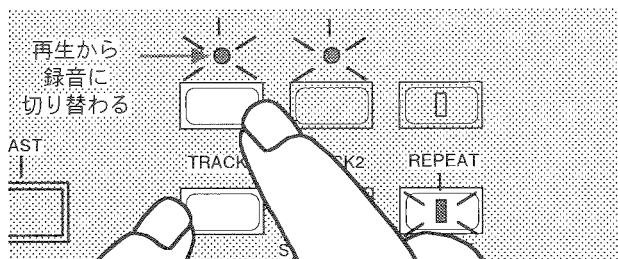
- 初めに録音したときと、あとから録音したときとで、それぞれのトラックに、別々の音色を設定しておいてもかまいません。このような設定をしておくと、最後に両方同時に再生するときも、それぞれの音色で同時に再生されます。ただし、同時に発音する音の数は、両方の音色を合わせてC-45で16音、C-55/C-55Sで32音までとなります。

曲の最後に新たに演奏を付け足したいときは…

すでに最後まで録音を終えた曲の、一番おしまいの部分から続けて録音を付け足したいときなどのために、曲の最後まで普通に再生して、そこから録音状態に切り替える、という操作が可能です。

操作

1. まず、**記録した演奏を聴いてみましょう**の手順にしたがって、録音した曲の再生をはじめます。曲の最後まで来ますと、START/STOP スイッチのランプが消えて、再生が停止します。
 2. RESET スイッチのランプが点灯した状態のまま、RECORD スイッチを押しながら、トラックセクターを押します。
セクターの上に点灯しているランプが緑色から赤に変わって、再生から録音に切り替わったことを示します。
 3. もう一度 START/STOP スイッチを押すか、もしくは鍵盤で演奏を始めると、曲の終わった箇所から、そのまま録音が始まります。
- 録音状態に入って以降の操作は、通常の録音のときと同様です。**演奏を記録してみよう**の手順を参照してください。



注意

再生している曲の途中で、START/STOP スイッチを押して一時停止して、録音に切り替えた場合、一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。

注意

曲を最後まで再生し終って停止したところで、音色を切り替えて、新しい音色で曲の続きを録音した場合、この曲を再生しても、新しく付け足された部分から自動的に音色が変わることはありません。
かならず、録音を始める前に選択されていた音色で、最後まで再生されます。

二つのトラックに別々に録音した演奏データを、一方のトラックにまとめて記録し直すこと(バウンス操作)ができます。データを一方のトラックにまとめると、もう一方のトラックは自動的に空白の状態に戻り、新たにそこへ録音することができるようになります。

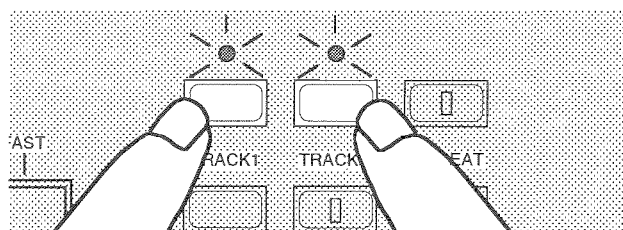
また、空いたほうのトラックへ新たに録音した演奏データと、すでにバウンスによって一つにまとめられたあのデータを、さらにバウンスして、全部の演奏データを一つのトラックにまとめることもできます。これを繰り返して、一人で3重奏、4重奏……を楽しむこともできます。

初めに、両方のトラックにそれぞれ演奏を録音しておきます。録音のしかたについては、**演奏を記録してみましょう**を参照してください。

操作

1. トラックセクターの TRACK 1 と、TRACK 2 とを同時に押します。

二つのセクターの上のランプが、赤と緑色に交互に点灯します。



2. START/STOP スイッチを押します。

バウンスが行われ、TRACK 1 と TRACK 2 に記録されていた演奏データは、一つにまとめられて TRACK 2 に納められます。TRACK 1 は、なにも録音されていない空白の状態に戻ります。

- 空いた TRACK 1 にあらためて演奏を録音して、その演奏データを再び TRACK 2 のデータへバウンスすることもできます。
TRACK 2 の演奏を聴きながら、新たに演奏したものを TRACK 1 に録音して(『一方のトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには…』をごらんください)、バウンスして全部のデータを TRACK 2 にまとめる、という手順を繰り返していけば、いくつものパートを別々に録音して行き、最後にその全てを同時に再生させて、大がかりなピアノ・アンサンブルを一人で作り上げる、といった楽しみ方もできます。

注意

バウンス操作は、14回まで繰り返すことができます。すなわち、一つのトラックに、15までの演奏データをまとめることができるわけです。

- 二つのトラックに別々の音色で録音されていた演奏データをバウンスして、一つのトラックにまとめたデータを再生するときでも、それぞれのパートは、録音されたときと同じ別々の音で同時に再生されます。
バウンスを繰り返していくつもの音色の演奏データを一つにまとめたときでも、それぞれのパートは録音されたときと同じ音で再生されます。
ただし、同時に発音される音の数は、全ての音色を合わせて C-45 で 16 音、C-55/C-55S で 32 音までです。

注意

バウンスして一つにまとめた演奏データを、再生途中で一時停止して、録音に切り替えることはできません。ただし、曲の最後で録音に切り替えて、演奏を付け足すことは可能です。『曲の最後に新たに演奏を付け足したいときは…』を参照してください。

- C-45/C-55/C-55S のレコーダのテンポに合わせて、リズムマシンやシーケンサーなどの外部 MIDI 機器を自動演奏させることができます。くわしくは、**外部 MIDI 機器との同期**を参照してください。

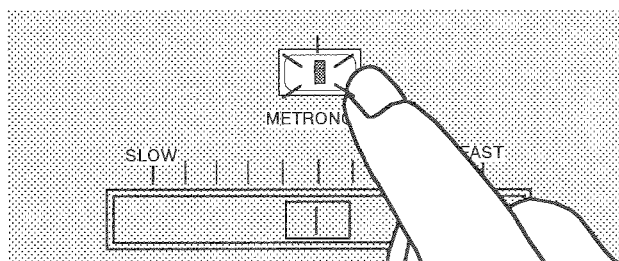
メトロノーム機能

C-45/C-55/C-55S には、テンポや拍子を音で知らせるメトロノーム機能があります。

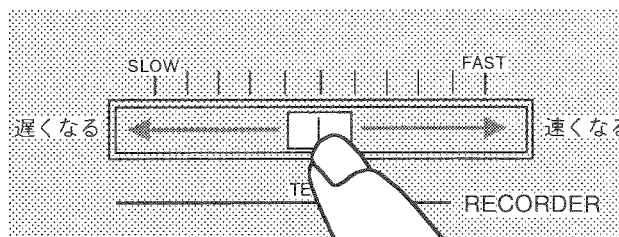
操作

1. METRONOME のスイッチを押してください。

スイッチのランプが点灯して、メトロノームがスタートします。



- メトロノームのテンポは、レコーダーのテンポボリュームで変化させることができます。ボリュームを左に動かすと遅くなり、右に動かすと速くなります。

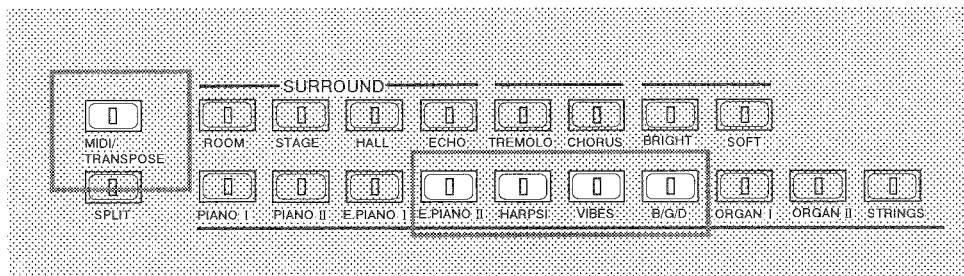


2. もう一度 METRONOME のスイッチを押しますと、スイッチのランプが消えて、メトロノームがストップします。

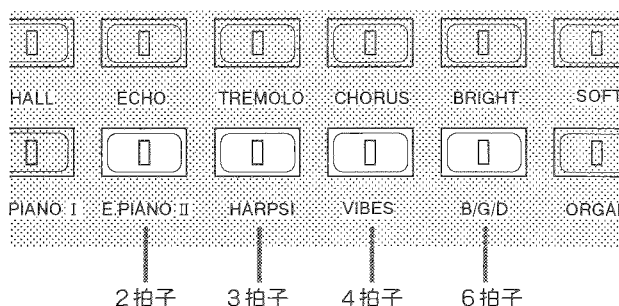
注意

メトロノームをオンにすると最大同時発音数は C-45 で 15 音、C-55/C-55S で 31 音になります。

メトロノームの拍子を設定するには



メトロノームの拍子を設定するには、フロントパネル上の MIDI/TRANPOSE スイッチと、音色セクターの E.PIANO II, HARPSI, VIBES, B/G/D の部分を使います。2 拍子、3 拍子、4 拍子、6 拍子のなかから選んで設定することができます。拍子を設定するときは、METRONOME のスイッチを押して、メトロノームを動作させた状態にしておいてください。



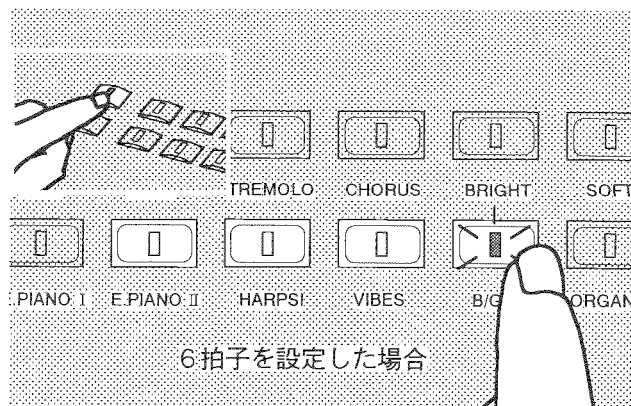
操作

1. MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、設定したい拍子に対応した音色セクターを押します。

押されたセクターのランプが点灯して、メトロノーム音の設定された拍子ごとに、アクセント音が入るようになります。

2. 設定を解除するには、もう一度 MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、ランプの点灯している音色セクターを押します。

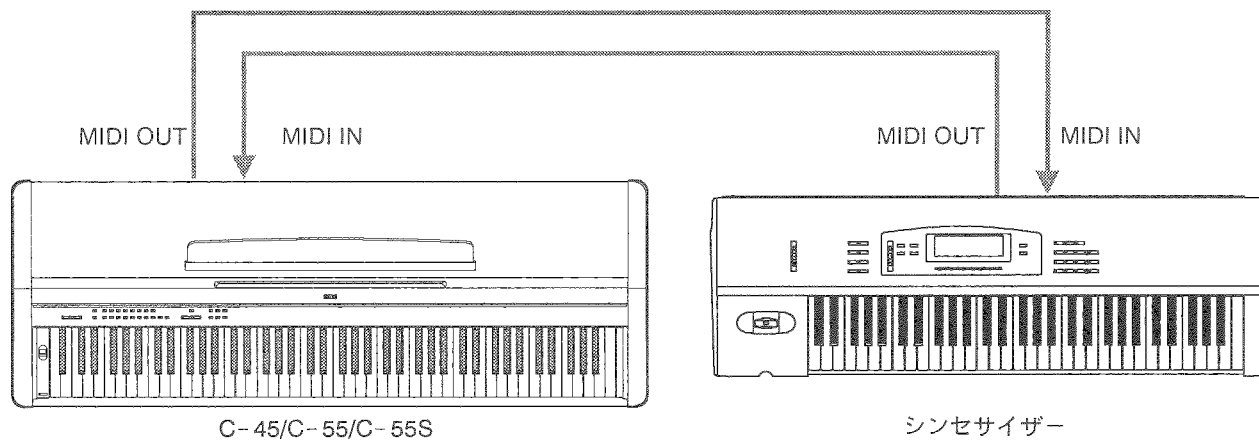
ランプが消えて、メトロノーム音はアクセントの付かない状態に戻ります。



- 電源を入れた直後は拍子設定のない(アクセントのない)状態となります。

MIDI を使って

MIDI(ミディ)とは、ミュージカル インストゥルメント デジタル インターフェイスMUSICAL INSTRUMENT DIGITAL INTERFACEの略で、あらゆる種類の電子音楽機器をデジタル信号で結ぶことのできる、世界共通の規格です。この規格を持っている MIDI 機器を複数つないで、演奏データをやり取りすることによって、何台ものキーボードを同時に演奏したり、コンピューターを接続して自動演奏をすることができます。例えば、C-45/C-55/C-55S にシンセサイザーを接続して C-45/C-55/C-55S の鍵盤で同時にシンセサイザーを演奏して、ピアノとシンセサイザーのアンサンブルを楽しむといった使い方や、MIDI シーケンサー(自動演奏装置)を接続して、たくさんの MIDI 機器のいろいろな音色を使って自動演奏を楽しむといった使い方ができます。C-45/C-55/C-55S のリアパネルには、MIDI IN、MIDI OUTそして MIDI THRU という3つの端子が付いています。OUT は C-45/C-55/C-55S からの MIDI 情報を送り出し、IN は他の MIDI 情報を受け取ります。THRU は、IN で受け取った情報をそのまま外へ送り出すというものです。図は、C-45/C-55/C-55S とシンセサイザーを接続した例です。MIDI ケーブルを使って、C-45/C-55/C-55S とシンセサイザーを、図のように接続してください。

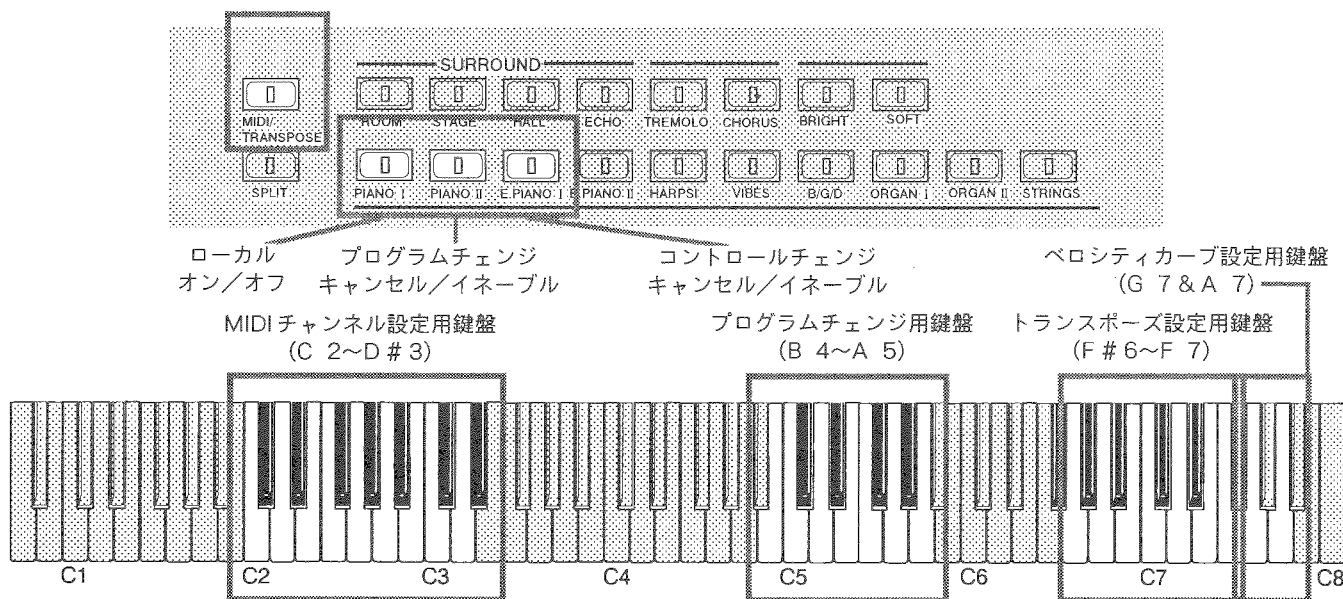


この説明書では、外部 MIDI 機器に C-45/C-55/C-55S を接続して楽しんでいただくための基本的な設定方法が示してあります。このような MIDI の活用法についてさらに興味のある方は、シンセサイザーやシーケンサーなどの MIDI 機器の取扱説明書や付属の“MIDI MINI TEXT”をご覧ください。

MIDI モードの設定

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しますと、音色セレクターのスイッチや鍵盤が、下のような機能にかわります。これらを利用して、MIDI に関するモードの設定を行います。

MIDI/TRANPOSE スイッチ



MIDIモードの初期設定

電源を入れた直後は、MIDIに関するモードは、自動的に右のように設定されます。

MIDIチャンネル	... 1
ローカル・オン/オフ	... オン
プログラムチェンジキャンセル	... イネーブル
コントロールチェンジキャンセル	... イネーブル

1. MIDIチャンネルの設定

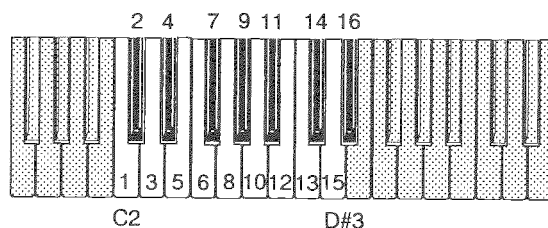
MIDIの演奏データを送受信するときは、必ずチャンネル指定をするようになっています。これは、データを受信する側で、チャンネルを切り替えることによって、必要な演奏情報だけを受け取って演奏させるためです。1~16チャンネルまで設定することができます。

操作

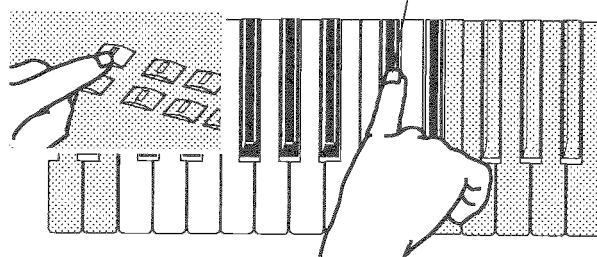
MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、MIDIチャンネル設定用の鍵盤のなかから、設定したいチャンネル番号に対応した鍵を押します。

- 電源を入れた直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

MIDIチャンネル



14チャンネルに設定する場合



この場合、送信チャンネルは14で送られることになり、受信チャンネルは14、15、16チャンネルとなります (P.40 マルチ機能参照)。

2. ローカル・オン/オフ

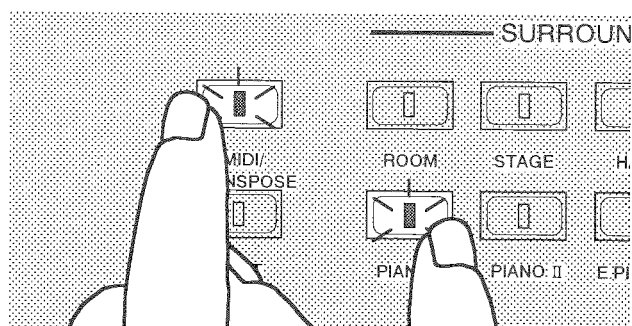
C-45/C-55/C-55S にシンセサイザーなどの MIDI 機器を接続して、C-45/C-55/C-55S の鍵盤を弾いたときに、C-45/C-55/C-55S 本体からは音を出さず、接続した機器だけが C-45/C-55/C-55S で弾いたとおりに鳴るようにすることができます。

操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、PIANO I の音色セクターを押すたびに、オン/オフが切り替わります。

- ローカル・オンの状態 ... (音色セクターのランプが消えます)
- ローカル・オフの状態 ... (音色セクターのランプが点灯します)

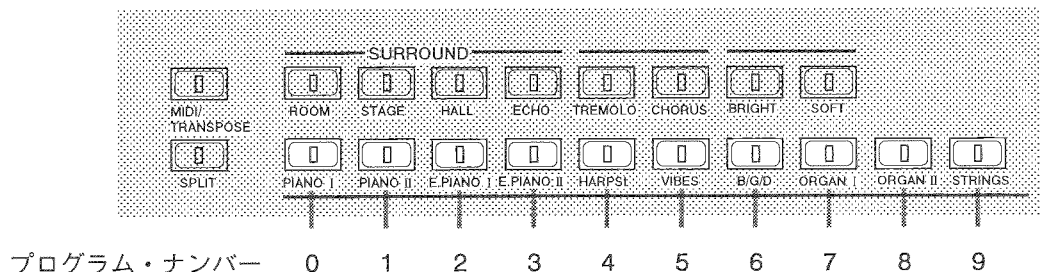
- 電源を入れた直後は、自動的にローカル・オンに設定されています。この状態では、C-45/C-55/C-55S の音が普通に鳴ります。
- ローカル・オフに設定すると、鍵盤を弾いても C-45/C-55/C-55S 本体からは音が出ず、接続されている MIDI 機器だけが鳴るようになります。



3. プログラム・チェンジ

プログラム・チェンジとは、MIDI機器の音色を切り替える情報を送信したり、受信したりする機能のことです。

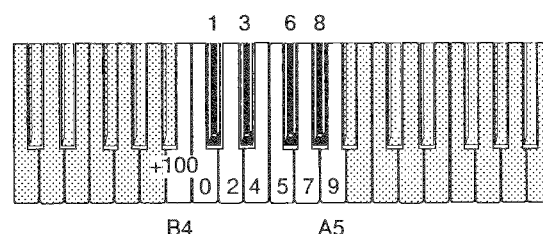
- C-45/C-55/C-55Sの音色セクターを押して音色を選択すると、下のように、音色セクターに対応した0から9までのMIDIのプログラムナンバーが、C-45/C-55/C-55Sに接続されているMIDI機器に送信されます。



鍵盤を使ってプログラムナンバーを送信する

シンセサイザーなどでは、一般に音色が11以上内蔵されていることがあります。そのような電子楽器にプログラムチェンジを送信するには、鍵盤を音色セクターに見立てて行います。

MIDIプログラムナンバー



操作

1. プログラムナンバー0から99までは、2桁の数字として扱います。

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、

プログラムナンバー0なら、	0	,	0
プログラムナンバー1なら、	0	,	1
⋮	⋮		
プログラムナンバー99なら、	9	,	9

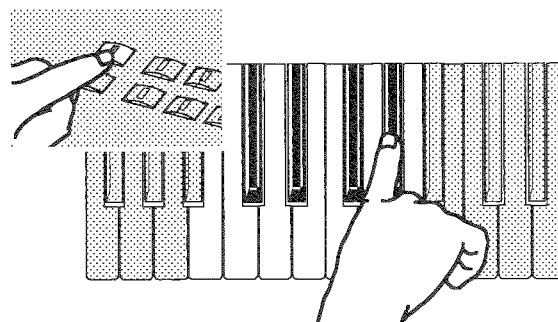
という順序で、鍵盤を押します。

2. プログラムナンバーが100以上のときは、まず **+100** を押してから、下2桁の数字を押します。

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、

ナンバー100なら、	+100	,	0	,	0
ナンバー101なら、	+100	,	0	,	1
⋮	⋮				
ナンバー127なら、	+100	,	2	,	7

という順序で、鍵盤を押します。



- 鍵盤を使ってプログラム・チェンジを行う場合、プログラムナンバーは、プログラム・チェンジ・キャンセルのオン/オフに関係なく送信されます。くわしくは、**プログラム・チェンジ・キャンセル**をご覧ください。

レイヤー・モードでのプログラム・チェンジ

レイヤー・モードで C-45/C-55/C-55S の音色を変更したときは、2 つ押した音色セクターのうち、後から押したほうの音色セクターに対応するプログラムナンバーが、外部の MIDI 機器に送信されます。くわしくは、12 ページ『レイヤーモード』をご覧ください。

また、C-45/C-55/C-55S がレイヤー・モードのときに、外部からプログラム・チェンジが送られてくると、C-45/C-55/C-55S の 2 つ選択されている音色のうち、音色セクター上で左側に配置されているほうの音色が、受信したプログラムナンバーにしたがって切り替わります。

- C-45/C-55/C-55S の音色数を超えるプログラムナンバーを受信しても、C-45/C-55/C-55S の音色は切り替わりません。

スプリット・モードでのプログラム・チェンジ

スプリット・モードで音色を変更したときには、高音側に設定されている音色の音色セクターに対応するプログラムナンバーが、外部の MIDI 機器に送信されます。

また、C-45/C-55/C-55S がスプリット・モードのときに、外部からプログラム・チェンジが送られてくると、C-45/C-55/C-55S の鍵盤の高音側に設定されているほうの音色が、受信したプログラムナンバーにしたがって切り替わります。

ただし、外部から送られてくるプログラム・チェンジによって、本体の音色を変更しようとする場合、現在すでに低音側として設定されている音色へ変更することはできません。

プログラム・チェンジ・キャンセル

プログラム・チェンジの情報を、送信・受信したくないときは、プログラム・チェンジをキャンセルに設定してください。

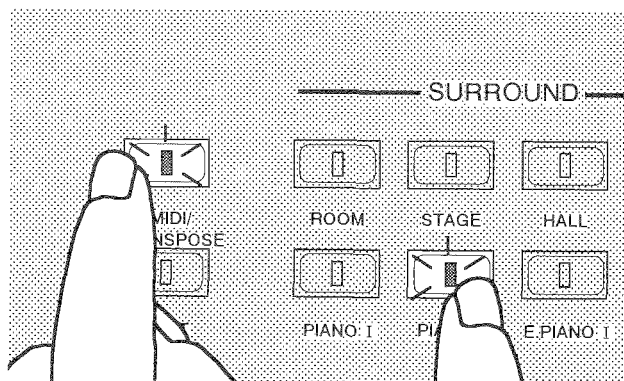
操作

MIDI/TRANSCOPE スイッチを押しながら、PIANO II の音色セクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。

キャンセルの状態…… (音色セクターのランプが点灯します)



イネーブルの状態…… (音色セクターのランプが消えます)



4. コントロール・チェンジ

コントロール・チェンジとは、ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルなどのコントロール情報のことをいいます。この情報を送信・受信したくないときは、コントロール・チェンジをキャンセルに設定してください。

- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。この状態では、C-45/C-55/C-55S のダンパーペダルやソフトペダルで、接続した他の MIDI 機器をコントロールしたり、他の MIDI 機器からコントロール・チェンジを受信して、C-45/C-55/C-55S のダンパーを操作することなどができます。

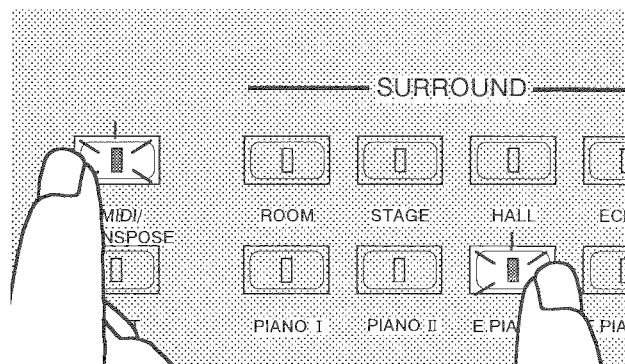
操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、E.PIANO I の音色セクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。

キャンセルの状態…… (音色セクターのランプが点灯します)
↑ ↓

イネーブルの状態…… (音色セクターのランプが消えます)

- コントロール・チェンジのキャンセル/イネーブルを設定するときは、ペダルを踏まない状態で設定を行ってください。



注意

外部からのコントロール・チェンジは、本体のペダルの設定の変更 (**レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定** 参照) に関係なく、レイヤー・モードやスプリット・モードにおいても、つねに両方の音色に対して有効となります。

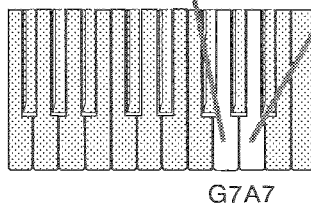
5. ペロシティ・カーブ・セレクト

ペロシティとは、鍵盤を叩くときの強さ (速さ) のことです。C-45/C-55/C-55S では、ペロシティに対する音量や音色の変化のしかた (ペロシティ・カーブ) がピアノの演奏に適したものとなっています。

C-45/C-55/C-55S を他のシンセサイザーに MIDI 接続して、C-45/C-55/C-55S の鍵盤でシンセサイザーを演奏するような場合、音量や音色の変化のしかたが不自然になることがあります。

このような場合、C-45/C-55/C-55S のペロシティ・カーブを、シンセサイザーの演奏に適したカーブに設定し直すことができます。

ペロシティ・カーブ設定用鍵盤
シンセサイザー ピアノ



操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、ペロシティ・カーブ設定用の鍵盤を押します。

G7 鍵を押したとき ...シンセサイザーに適したカーブ

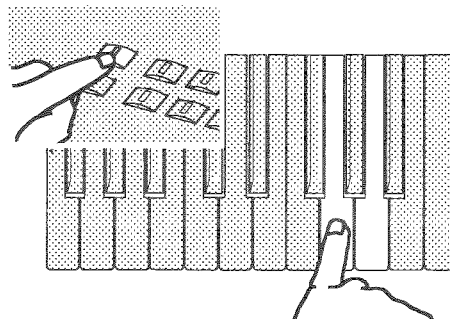
A7 鍵を押したとき ...ピアノに適したカーブ

- 電源を入れた直後は、ピアノに適したペロシティ・カーブが自動的に設定されています。

注意

ペロシティ・カーブ・セレクトは、MIDI で接続された外部の音源に対してのみ機能します。

C-45/C-55/C-55S 本体の音はタッチコントロールの設定に従います。

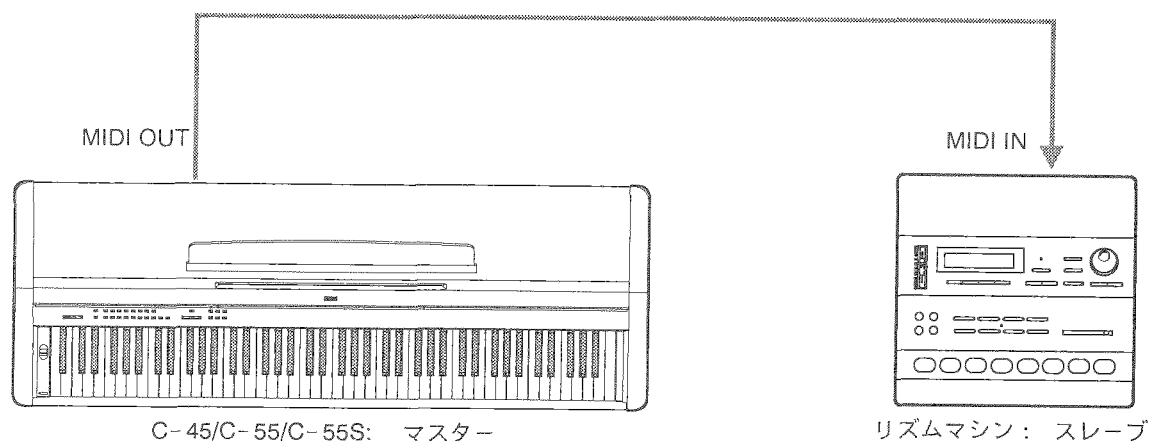


外部 MIDI 機器との同期

C-45/C-55/C-55S のレコーダは MIDI で接続した外部のリズムマシンやシーケンサーなどと同時に演奏を行うことができます (「同期をとる」といいます)。

C-45/C-55/C-55S はマスター機 (コントロールを行う機器) として働きますので、接続した外部 MIDI 機器をスレーブ機 (コントロールされる側の機器) として設定し、C-45/C-55/C-55S の MIDI OUT とスレーブ側の MIDI IN を接続してください。

MIDI ケーブルを使って、C-45/C-55/C-55S とリズムマシンを、図のように接続します。



- お互いのスタート/ストップは、C-45/C-55/C-55S の START/STOP スイッチで行ないます。
- C-45/C-55/C-55S から出力される MIDI クロック (テンポを合せるための信号) はテンポ・ボリュームに従います (接続する MIDI 機器のクロックの設定などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください)。

MIDI マルチ機能を活用しましょう

C-45/C-55/C-55S では、同時に二種類の音色を鍵盤上で演奏することができます (2つの音色を同時に出してみましょ参照) が、外部 MIDI 機器を接続して、外部からコントロールすることによって、もっと多くの音色を一度に鳴らすことができます。同時受信チャンネル数はパネル上の設定音と音色数をたした 11 です。

- 電源入れた後の受信チャンネルと音色の関係は以下ようになります。

チャンネル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
音色	パネル上の設定	PIANO I	PIANO II	E.PIANO I	E.PIANO II	HARPSI	VIBES	B/G/D	ORGAN I	ORGAN II	STRINGS

- MIDI チャンネルの設定により (MIDI チャンネルの設定参照)、音色に対応する受信チャンネルの変更ができます。その場合、設定したチャンネルから、大きいチャンネルナンバーへと順番に音色が対応します。

MIDI チャンネルを 3 に設定した場合

チャンネル	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
音色	パネル上の設定	PIANO I	PIANO II	E.PIANO I	E.PIANO II	HARPSI	VIBES	B/G/D	ORGAN I	ORGAN II	STRINGS

MIDI チャンネルを 14 に設定した場合

チャンネル	14	15	16								
音色	パネル上の設定	PIANO I	PIANO II								

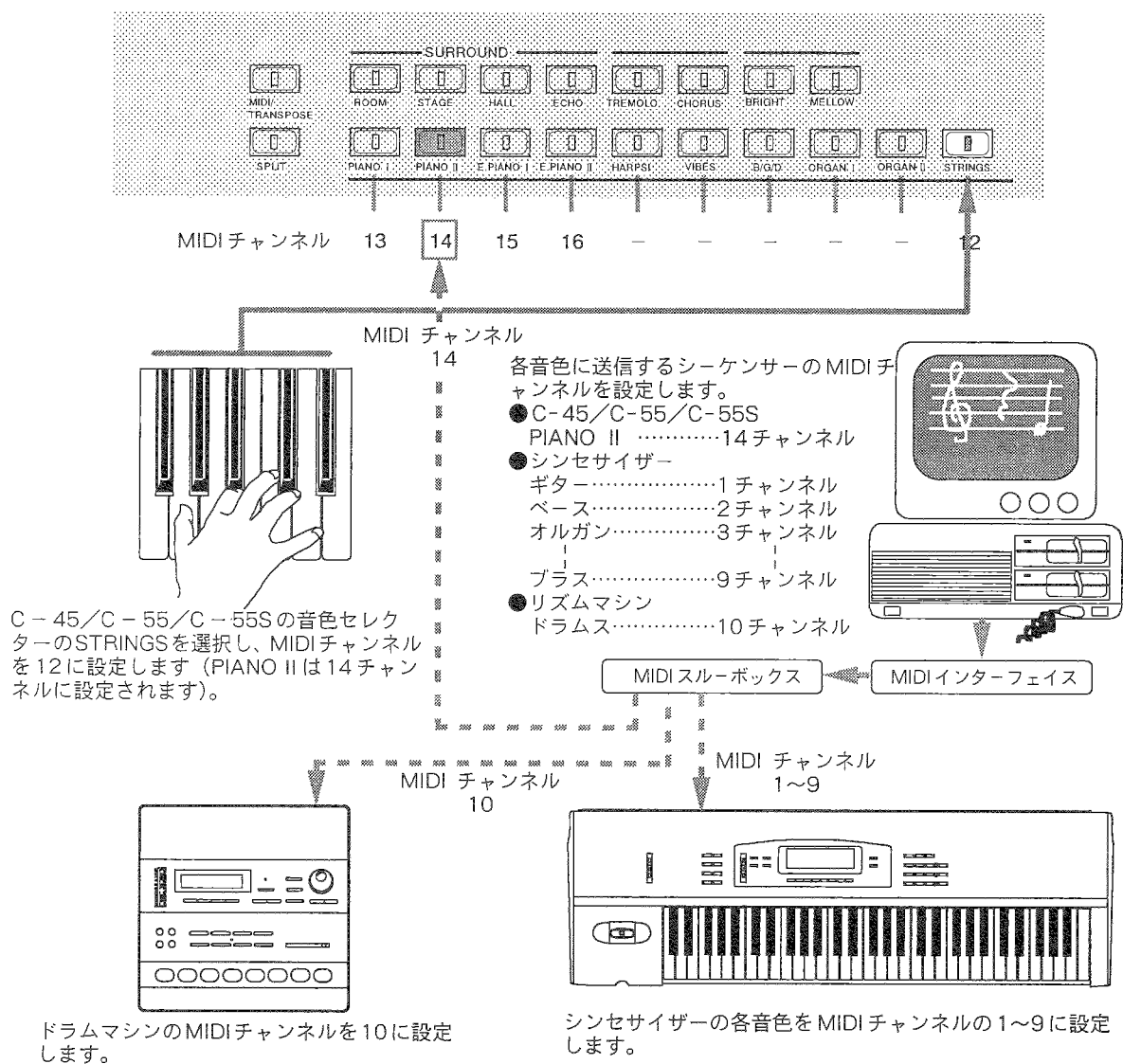
設定チャンネルが 16 チャンネルの場合、パネル上の音色が 16 チャンネルで発音し、それ以外のチャンネルでは発音しないことになります。

MIDI チャンネルを 16 に設定した場合

チャンネル	16										
音色	パネル上の設定										

異なった複数のチャンネルの演奏データを同時に送信できるタイプのシーケンサー (自動演奏装置) を接続して、C-45/C-55/C-55S と複数の外部 MIDI 機器を自動演奏させます。このような複数の音色を自動演奏させる場合に、C-45/C-55/C-55S の音色に対応する MIDI チャンネルを変更することによって他の機器のチャンネル設定が容易となります。

図は、マルチティンバー (ティンバーごとに MIDI チャンネルを設定できる) 機能を持つシンセサイザー、リズムマシンと C-45/C-55/C-55S の PIANO II の音色を自動演奏させて、その演奏に合わせて STRINGS の音色で鍵盤を演奏するための設定です。シーケンサーの各音色の送信チャンネルと、各 MIDI 機器の受信チャンネルを図のように設定します。



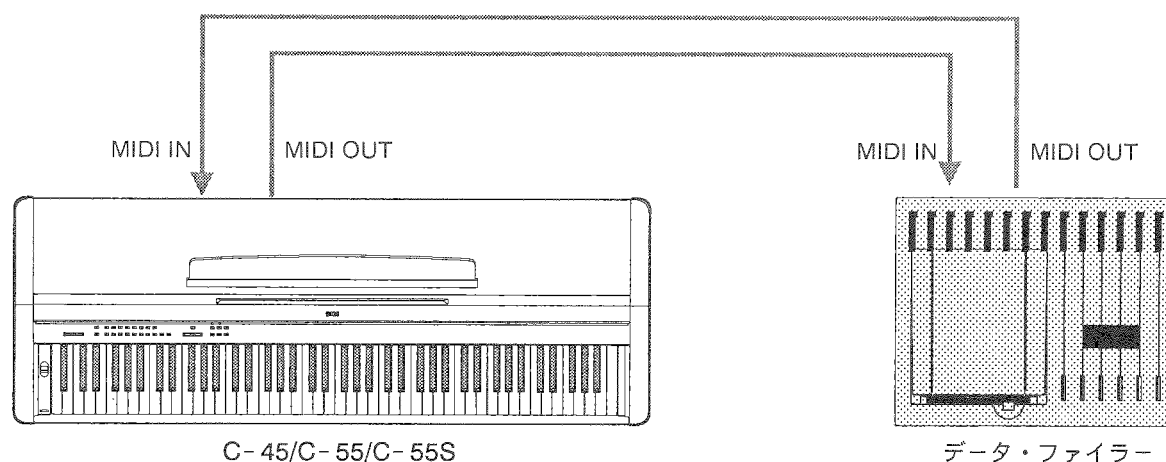
- それぞれのチャンネルの音色は、プログラムチェンジで変更することが可能です。
- 音色や演奏データだけでなく、ペダルなどのコントロール・チェンジの情報も、チャンネルごとに独立して受信することができます。
- C-45/C-55/C-55S は、鍵盤で演奏される音の数と、外部からのコントロールによって演奏される音の数とを合わせて C-45 は 16 音、C-55/C-55S は 32 音まで発音することができます。異なる音色が同時にできるように設定されているときは、音色の種類に関係なく、C-45 は合計 16 音、C-55/C-55S は合計 32 音までが同時に発音します。

MIDI データ・ダンプ機能

MIDI データ・ダンプ機能を使いますと、C-45/C-55/C-55S のレコーダーに録音した演奏データを、外部の記憶装置に保管しておくことができます。たとえば、いくつもの曲や演奏を保管しておいて、そのなかから必要に応じて好きな曲を選んで、練習や録音の続きを行う、といった使い方ができます。

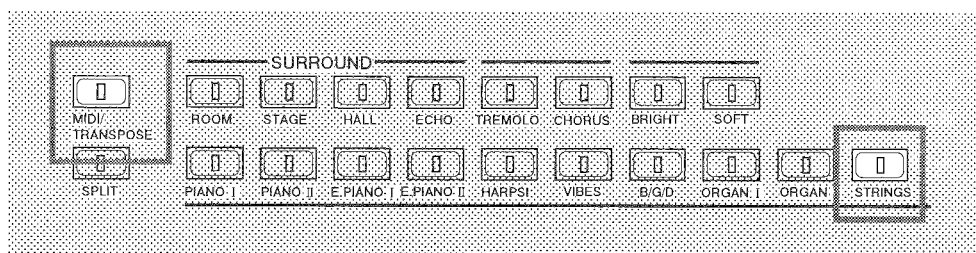
この外部記憶装置とは、一般に『MIDI データ・ファイラー』などの名称で呼ばれているもので、一部の MIDI シーケンサーやシンセサイザーに内蔵されていることもあります。データ・ファイラーを使って演奏データの管理を行うときは、必ずデータ・ファイラーに付属している取扱説明書をよくお読みください。

まず、MIDI ケーブルを使って、C-45/C-55/C-55S とデータ・ファイラーを、図のように接続しておきます。



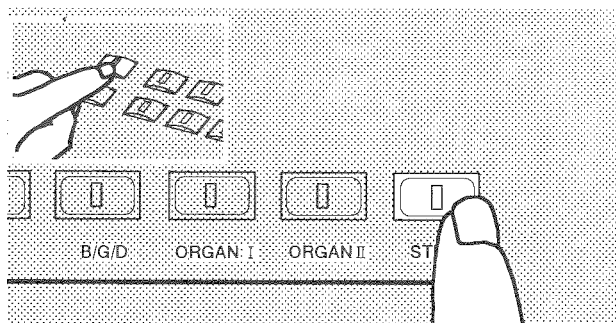
C-45/C-55/C-55S の演奏データを、データ・ファイラーに保管するには…

データ・ダンプの操作を行うには、C-45/C-55/C-55S のフロントパネル上の MIDI/TRANPOSE スイッチと、音色セクターの STRINGS を使います。



操作

1. データ・ファイラーを操作して、C-45/C-55/C-55S からの MIDI データを、受信待ちの状態にしておきます (データの受信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください)。
2. C-45/C-55/C-55S の MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、音色セクターの STRINGS を押します。



データ・ダンプが開始し、C-45/C-55/C-55S の演奏データがデータ・ファイラーに送信されます。

注意

データ・ダンプに要する時間は、演奏データの量によって異なりますが、データ・ダンプが完了しますと、データ・ファイラー側では演奏データの受信が終了したことを意味する表示がなされます (表示のされ方は、データ・ファイラーの機種によって異

なりますので、それぞれの取扱説明書をご覧ください)。データ・ダンプ中に C-45/C-55/C-55S やデータ・ファイラーを操作しますと、データ・ダンプがうまく行われなことがあるかもしれませんのでご注意ください。

データ・ファイラーに保管しておいた演奏データを、C-45/C-55/C-55S のレコーダーに戻すには…

まず、データ・ファイラーと C-45/C-55/C-55S を MIDI ケーブルで正しく接続しておいてください。C-45/C-55/C-55S は、電源を入れた状態にしておきます。

操作

データ・ファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいた C-45/C-55/C-55S の演奏データを送信してやります (データの送信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください)。

データの受信が終り、演奏データが C-45/C-55/C-55S のレコーダー内に元どおりに正しく納められますと、C-45/C-55/C-55S は音の出る通常の状態に戻ります。レコーダーを操作して、演奏データの再生や録音をお楽しみください。

注意

データ・ファイラーからのデータを受信している間は、C-45/C-55/C-55S からは音は出ません。

注意

ペダルの設定の変更の情報 (**レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定** 参照) は、データ・ファイラーに記録しておくことはできません。

MIDI インプリメンテーション

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk=15~113	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk=15~113 vvv vvv=1~127	A
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off(Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On(Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0000 0000	Sosutenuto Off(Sosutenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0111 1111	Sosutenuto On(Sosutenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0000 0000	Soft Off(Soft Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0111 1111	Soft On(Soft Pedal)	C
1100 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change ppp ppp=0~127	P

nnnn : MIDI Channel No.(0~15)Usually Global Channel.

ENA=A : Always Enabled

C : Enabled when Control Filter is ENA

P : Enabled when Program Filter is ENA

1-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock *2
1111 1010	Start *2
1111 1011	Continue *2
1111 1100	Stop *2
1111 1110	Active Sensing

*2 : Transmits when Recorder is playing or Recording

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvv=1~127	A
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0100 0000	00xx xxxx	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	01xx xxxx	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0010	00xx xxxx	Sosutenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sosutenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	00xx xxxx	Soft Off	C
1011 nnnn	0100 0011	01xx xxxx	Soft On	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	(All Notes Off) m mmmm=0~16	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change	A

x : Random

ENA Same as TRANSMITTED DATA

2-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

3. MIDI EXCLUSIVE FORMAT(R:Receive, T:Transmit)

3-1 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE

1st Byte = 1111 0000(F0)	: Exclusive Status	
2nd Byte = 0100 0010(42)	: KORG ID	
3rd Byte = 0011 nnnn(3n)	: Format ID n : Global ch.	EX.Header
4th Byte = 0010 1011(2F)	: C - 35/45/55 ID	
5th Byte = 0100 1000(48)	: Function=All Sequencer Data Dump	
6th Byte = 00dd dddd(dd)	: Data	
.....		
LastByte = 1111 0111(F7)	: End of Exclusive	EOX

ALL SEQUENCER DATA DUMP R, T

Byte	Description
F0, 42, 3n, 2F	EXCLUSIVE HEADER
0100 1000	ALL SEQUENCER DATA DUMP 48H
00mm iiii	channel 0 status (See Note 1)
0bbb jjjj	
0kkk kkkk	
0ppp pppp	
0qqq qqqq	
.....	
00mm iiii	channel 15 status (See Note 1)
0bbb jjjj	
0kkk kkkk	
0ppp pppp	
0qqq qqqq	
.....	
0111 1111	Track 1 Data size(=0hmm mmmm mlll llH)
0mmm mmmm	
0000 000h	
0ddd dddd	Track 1 Data
.....	
0111 1111	Track 2 Data size(0hmm mmmm mlll llH)
0mmm mmmm	
0000 000h	
0ddd dddd	Track 2 Data
.....	
0000 cccc	Next Bounce Channel
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

Note 1)

mm : 00=Single, 01=Split, 10=Layer, 11=Inhibit

llll : Instrument No. (Single, Split Upper, Layer1)

jjjj : Instrument No. (Split Lower, Layer2)

bbb : Volume balance

kkkkkkk : Split point

ppppppp : Upper Split Octave Value

qqqqqqq : Lower Split Octave Value

ch0:Track1,ch1:Track2,ch2~ch15:Bounce channel(Track2)

C-45/C-55/C-55S MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1 1-16	1-16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	× × *****	3 ×	
ノートナンバー : 音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	1-127 ×	1-127 ×	
アフタータッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
7 コントロール 64 66 チェンジ 67	× ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ボリューム *1 ダンパー・ペダル *1 ソステヌート・ペダル *1 ソフト・ペダル *1
プログラム チェンジ: 設定可能範囲	0-127 *****	0-9 0-9	*2
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
: ソング・ポジション コモン: ソング・セレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム: クロック : コマンド	○ ○	× ×	
: ローカルON/OFF その他: オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : リセット	× × ○ ×	○ ○ 123-127 ○ ×	
備考 *1 コントロール・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *2 プログラム・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 鍵盤を使ったプログラム・チェンジは、イネーブル/キャンセルに関係なく送信する。			

モード 1: オムニ・オン、ポリ
モード 3: オムニ・オフ、ポリ

モード 2: オムニ・オン、モノ
モード 4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、下記の事柄を確認してください。

それでも症状が改善されない場合は、お近くの販売店、またはコルグ・サービスセンターまでお問い合わせください。

電源が入らない



電源コードがプラグにしっかり入っていますか？

音が出ない



- ①ボリュームが0になっていませんか？
- ②MIDIモードでローカルオフになっていませんか？
- ③ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？

仕 様

■鍵盤	88鍵 (A0~C8)	イニシャルタッチ付き
■音色	10音色: ピアノ 1、ピアノ 2、エレクトリック・ピアノ 1、エレクトリック・ピアノ 2、ハーブシコード、バイブ、ベース/ギター/ドラム、オルガン 1、オルガン 2、ストリングス	
■効果	サラウンド (ルーム、ステージ、ホール、エコー、トレモロ、コーラス、ブライト、ソフト)。	
■レコーダー部	最大 3,400 ノート: テンポ、メトロノーム、トラック 1、トラック 2、リピート、レコード、スタート/ストップ、リセット (バウンス機能付き)	
■キーボードモード	シングル、レイヤー、スプリット (MIDI マルチ)	
■コントロール	ボリューム、パワースイッチ、キートランスポーズ、ピッチコントロール、タッチコントロール、古典調律、	
■ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート	
■接続端子	ヘッドホン、AUX イン (L, R)、AUX アウト (L, R)、MIDI イン、アウト、スルー	
■メインアンプ	30W × 2 (C-45)	■消費電力 45W (C-45)
	40W × 2 N.A.P. システム	120W (C-55/C-55S)
	(C-55/C-55S)	■外形寸法 1382(W) × 491.5(D) × 844(H)mm
■スピーカー	16cm × 2 (C-45)	■重量 (スタンド含) 51.4kg (C-45)、55.6kg (C-55)、
	16cm, 10cm × 2,	54.8kg (C-55S)
	5cm × 2 (C-55/C-55S)	■付属品 譜面立て、キーカバー
■定格電源	AC100V 50Hz/60Hz	

アフターサービス

- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。
 - ①消耗部品 (電池など) を交換する場合。
 - ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
 - ③天災 (火災等) によって生じた故障。
 - ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
 - ⑤コルグサービスステーション及び、コルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
 - ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
 - ⑦保証期間が切れている場合。
 - ⑧日本国外で使用される場合。
- 当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても 3 カ月以内に限り無償修理となります。また仕様変更に関しては有償になります。
- お客様が保証期間中に移転された場合でも保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグインフォメーションセンターまでお問い合わせください。
- 保証期間がきれますと修理は有料になりますが、引き続き、製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品 (電子回路など) は通常 8 年を基準に保有しております。ただし外装部品 (パネルなど) の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。
- 他にアフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲

インフォメーションセンター	〒160 東京都新宿区西新宿 7-2-5 新宿第一富士ビル B1F	☎ (03)3363-5995
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎ (03)3323-5241
横浜営業所	〒220 横浜市西区北幸 2-10-42 寺内ビル 2F	☎ (045)324-7776
北関東営業所	〒331 大宮市桜木町 4-929-2	☎ (048)644-6800
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F	☎ (06)374-0691
名古屋営業所	〒466 名古屋市中昭和区八事本町 100-51	☎ (052)832-1419
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第 2 池田ビル 1F	☎ (092)531-0166

- 修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までご連絡ください。
営業技術課 〒157 東京都世田谷区南島山 4-28-20 ☎ (03)3309-7001

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Property qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

☆この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

KORG
株式会社コルグ

■本社: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3325-5691(代) ■インフォメーションセンター: 〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5第一フジビル ☎(03)3363-5995
■東京営業所: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5241 ■横浜営業所: 〒220 横浜市西区北幸2-10-42 ☎(045)324-7776(代)
■北関東営業所: 〒331 大宮市桜木町4-929-2 ☎(048)644-6800(代) ■大阪営業所: 〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎(06)374-0691(代) ■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ: 〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎(052)832-1419(代) ■福岡営業所: 〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル ☎(092)531-0166(代)

© KORG INC. 1992

0401 CTH PRINTED IN JAPAN